

「ロリコンとうさん」

Ver. 2023/12/14/12:38:12 AM

作：イトウシンタロウ

登場人物

★桑田澄太郎（ロリコンとうさん／文筆業）・小学生時代の七海

※中年男性の役ですが、必ず女子小学生に見える女優さんが女子小学生の格好で演じてください

★未生（ロリコンとうさんの妻）・女子小学生（白勢）

★ユキ（ロリコンとうさんの姉／ヒデオの妻）・日野先生

★ヒデオ（ロリコンとうさんの義兄／ユキの夫）・女子小学生（イグロ）

★小森（ロリコンとうさんの大学以来の友人／同人絵師「小森スツポ氏」）・女子小学生（大森）

★みずき（七海の恋人／澄太郎のファン）・女子小学生（みずき）

★七海（みずきの恋人／ファミレスバイト／元野口の教え子の梶川七海）

★志織（野口の同居人の女）

★野口（小森の支援者／元小学校教師）

注釈等

※台詞中にある（ ）は、俳優によるアドリブを想定しています

※アドリブの（ ）内は（ ex.台詞の例 ）のように、ex.が書いてある場合、アドリブの例として方向性を示す台詞の内容が書いてあります。それをそのまま言うつもりでアドリブを変更しても良い感じですよ

※消し線はカット部分で上演時はカットして演じますが、参考として残しています

※ハイライトは、一旦採用して覚えて稽古した後に出た修正や訂正、削除、復活部分です。変更時期によってこのように色が変わります

上演歴

※2023年8月～9月 @下北沢ザ・スズナリ

暗転

【1】

1-1

照明 1in。

暗闇の中に、少女(桑田)の姿が浮かび上がる。ランドセルを背負い、小学校高学年くらいに見える。桑田は暗い顔でうつむいて床をみつめ、しばらくの間、黙っているが、やがて気だるげに顔をあげ、観客を見据え、ようやく決心し、話を始める

桑田

…この作品は、フィクションであり、実在する人物、団体とは一切関係がない。というのも、最初にこうやって断っておかなければ、品性のかからも無い貴様ら、観客諸君は、これが私の身に起こった実際の話…私小説やドキュメンタリーとまでは言わなくとも、実体験を元にした限りなく事実に近いノンフィクションであるかのように誤解し、勘ぐり、下品な想像で神聖なこの舞台空間を満たし、約2時間の上演が終わった後、私の愛する彼女のその写真が、ネット上に一枚でも転がっていないか、舌なめずりをしてスマートフォンをこすり、そこいらの壁や柱にゴツンドスンとぶつかりながら、この劇場を後にするに決まってるからだ!…そんな事は、断じて許さない!歩きスマホだめ絶対。足元に注意して帰るのだ。

桑田

…いや、歩きスマホの事じゃないぞ!俺が言ってるのは!俺が言ってるのは、彼女について調べ、彼女の人生と尊厳を、汚らしく脂ぎった貴様ら観客共の悪臭のする腐った興味本位で汚すことを、絶対に許さない!そう言ってるんだ。わかったか!

桑田、昂ぶって話しすぎたのか、ハアハアと呼吸を乱している

桑田

(静まりかえる客席をゆっくりと見渡した後) …フンッ、これだけ罵られてダンマリとは、骨のない奴らだ。チキンめ。骨なしチキンめ!可愛い女子小学生に罵られるならまだしも、俺のような中年男にこれだけ口汚く罵られて嬉しそうにするとは、大概だな!…まあいい。どうせ、俺も似たようなものさ。近い将来、彼女に罵られる俺も、その時は貴様らと同じようにダンマリとバカみたいに口をあけ、昔の自分にそっくりな彼女の顔をみつめながら、言葉なんて何も見つけられず、途方にくれるに決まってるんだ…。

桑田、落ち込み、座りこみ、あぐらをかく。

絶望したように、手で両目を抑え、うつむいた後、少しの間があつて

桑田

…聞いてくれるか? この哀れな男の哀れな話を。3000円だか4000円だか安くはない金を払って観客席にいるところ、湿気た話で申し訳ないが、あと2時間、俺が世界で一番大切で、美しいと思ってる、一人の女の子の話を聞いて欲しいんだ。

1-2

未生が入ってくる。

桑田、未生に気づいて、立ち上がり、距離を取る

未生は黙って桑田を見ている。桑田は未生に目を合わせたまま、

もちろん、この女の事じゃない。こいつはただの脇役だ。顔が可愛くて、働き者で、気立ての良い女だが：一つ、不可解な点をあげるとすれば、それは彼女が俺の妻であることだ。

桑田

大丈夫

桑田

な、何がだ？

未生

お金なら私がかんとかするし、あなたはやりたい事をやめなくてもいい。子供ができれば、私が一人で育てるし、シングルマザーのつもりで、家の事も全部一人でするから。

桑田

ええ：

未生

だから

桑田

：だから？

未生

：だから？

桑田

：結婚しよう？

未生

：…（頭を撫でる）

桑田

：…（ええー…というのが声にならない）

未生、去っていく

桑田

わけがわからなかった。俺は本来、こんな女の隣にいい人間じゃない。なのにこいつは、「俺がこいつと結婚しない理由」をすべて奪って「一緒にしよう」と言ってくる。正気の沙汰とは思えない。

頭を抱える桑田

桑田

そうして、何年か我を失い、呆然自失としているうちに、あれよあれよと「彼女」がこの世に現れた

お腹を大きくした未生が戻って来た

桑田、いきなりお腹が大きくなった未生にぎよっとして固まりそっになるのを、頑張って耐えた

未生

何か言っ

桑田

：でかした

未生

うん

未生、よくできました、とでも言うように桑田の頭を撫でる

我慢して撫でられている桑田

未生

：う、う（産気づく）

桑田

どうした

未生

これで、押さえて…（と、テニスボールを取り出し渡す）

桑田

え、何を？

未生

溢れちゃうから

桑田

だ、だから何が？

未生

背骨

桑田

せ、せぼ…？（と最後まで言えず）

音：赤子が泣く

泣き声に背中を押されるように、出かける桑田

桑田

いつまでも粉ミルクや母乳でいいわけじゃない。程なくして、ガツガツと食べ始めるであろうこの子のために、俺は、金を稼がなければならなくなった。売れない物書きを生業としていた俺が、すぐに金を手に入れる方法はさして多くなく…追い詰められて手を染めたのは、かつての青春時代に封印した、口にするものはばかられる、ある特定の人間たちに向けた「創作活動」だった。

1-3

いわゆる同人即売会の会場

長机が置かれ、仮設の同人サークルの販売ブースになる

机には、頒布物（ディスク）や金銭授受セット、ポップ、ポスター、のぼり、「完売しました」等
いつの間にか小森が一緒にいる

小森

いやあー無事、完売ですな

桑田

うん、良かった

小森

200 じゃ少なかったかな。買えない人いっぱいだし

桑田

いやいやいや、十分だよ。人並んじゃって、運営さんに怒られちゃったし

小森

たしかに。次は壁際に机置いてもらわないと

桑田

無理無理、ここくらいが分相応だって

小森

だって、お金いるんでしょ

桑田

まあね

小森

じゃあ

桑田

それに、なんか恥ずかしいし

小森

いや、今更だろ、こんな作品作っとして

桑田

そうだけど

小森

みんな喜んでくれてたじゃん。

桑田

いや、でもなんとなく罪悪感が

小森

いいじゃん、別に。ロリのミルク代を賄うために、ロリコンたちが金を払う、何もおかしなことはない

桑田

そう…なのかなあ

小森

え、じゃあ、逆になんでやるうと思ったの？ロリエロ同人

桑田

いやあ、一番てっとり早くお金になるっていうか…

小森

まあ、なるけれども。てか桑田、本業あるじゃん？ドラマの脚本とかやってたじゃん

桑田

ラジオのね

小森

や、だってほら、他にもゲームのシナリオとか、ソシヤゲのフレーバーテキストとか。あとなんかよくわからないサイトに記事書いたり、よくわからない雑誌にコラム書いたり、あとなんかよくわ

小森

からない…

桑田

金にならないんだよ！そういうよくわからない仕事は

小森

そうなんだ

桑田

うん。恥ずかしいからあんま言わないけど…。ぶっちゃけ、エロ同人の方が10倍は儲かる

小森

マジか…。いや、ま、これで家建てる人もいるくらいだからねー。大変らしいよ、後で税務署が来

桑田

たり。売上分の所得税払えって。

小森

俺、本業で所得税払ったことないから

桑田

え…（絶句）

小森

収入低すぎて…控除の額越えたことなくて

桑田

え…（絶句）

桑田

収入低すぎて…控除の額越えたことなくて

小森 マジか……。いやあ、やっぱり「字書き」って大変なんだな

桑田 字書き

小森 うん、「総書き」に対して「字書き」って言うんだよ。界限では。

桑田 へえ。

小森 まあ、でも今年はさすがに納税しなきゃでしょ。

桑田 おかげさまでね。てか、プロソフトフェアム側で源泉徴収されてるから、もち払ってるとも書える

小森 もうすぐ3000ダウンロードとかだったけ。DLsiteだ。

桑田 うん、今2800くらい。Fanzaとあわせると4000弱かな

小森 え、すごい、Fanzaってロリものあんまり売れないのに。

桑田 おかげさまでね。

小森 いや、才能だなー。やっぱり桑田は違うよ。うん、ちゃんと「一本筋」の入った…筋金入りのロリコンだ

桑田 やめろって、恥ずかしいから

小森 アハハハ、大丈夫だよ…この「島」(※注 同人誌即売会における机の一回まりのこと)に「ロリコン」を恥ずかしいと思う不屈な輩は、一人もいないのだから！

桑田 そうかもしれないけど…

小森 ごめんごめん。でも俺、嬉しくてさ！またこうして桑田と同人活動できるのがえ？

桑田 しかもR18ジャンルで？ あの頃の桑田、絶対やらなかったじゃん、18禁

桑田 俺、まあ、大学の時は、ちょっと抵抗あったというか

小森 俺、桑田に出会うまでは、周りに俺しか「ロリコン」キャラがいなくて。「自分、犯罪者ですから(笑)」「みたいな事言っつて、おどけながら生きてただけど…辛かったんだよな、本当はそうだったの？

小森 うん。なんか、幼稚園児の写真とか見せられてさ、「こいつ、こういうのが好きなんだぜ」とか言われて。俺も俺で「幼稚園児大好物でちゅ〜」とか、無理して乗っかってさ、まわりが笑ってくれるもんだから。…だけどやっぱり、俺のロリコン魂は傷ついてたのだよ

桑田 ロリコン魂

小森 そう。だって…幼稚園児は俺の対象じゃないから！園児は「ロリ」じゃなくて「ペド」だから！というか、そもそも俺、二次元専門だし。リアル園児興味無えから！

桑田 う、うん

小森 だから、俺、桑田がロリコンだって分かった時、本当に嬉しくて！

桑田 そ、そっか

小森 俺にもやっと、本当の「ろりともだち」が出来たんだって

桑田 ろりともだち

小森 短い間だったけど、一緒に同人活動もできたし…本当に楽しかったんだ、俺。

桑田 いや、俺だって、楽しかったよ。小森以外、こんな話できる相手いなかったし、てか、今もないし。こうして、また一緒にやれてるのも。ていっちか、小森がいなかったら、何もわかまなかったもん、ダウンロード販売の仕方とか、作品の登録方法とか、外注さんのオファーの仕方とかその辺はただの慣れですか

小森 だけど、小森がいなかったら、小森が同人続けてくれてなかったら、こうやってエロ同人で稼ごうなんて発想すらなかったもの。だから恩人だよ、お前は、俺にとっても、桑田家にとっても。

小森 うう、桑田ー！(と、桑田を抱きしめる)

桑田 え、ちよ、やめろ、暑い、臭い

小森 俺、ロリコンで良かった！ロリコンだったから…お前と出会えた！

桑田 うん、いや、わかるけど、やめて

小森 て、ん？(クンクンと桑田の匂いを嗅ぎ)…お前、なんかいい匂いするな？…まるで女の子みたいな。(わひひと嗅ぐ)

桑田

やめろー

ヒデオが入ってくる

ヒデオ

何やってんだよ…、おっさん二人で抱き合っ

桑田

え？

ヒデオ

ヨッ、ロリ太郎先生

桑田

え、え、ヒデオさん？え、何で！？

小森

ん誰？お知り合い？

桑田

ぎ、義理の兄で…姉ちゃんの旦那さん

小森

あ、お義兄さん？

ヒデオ

もしかして、君が「小森ズツポ氏」くん？

小森

あ、はい

ヒデオ

やっぱりー！アハハハ、アハハハ

小森

？

ヒデオ

驚いた？驚いた？いやー、たまたま大学ん時の集まりがあつてさ、上京したから来てみたんだよ

桑田

ええー！なんで？え、あ、もしかして…？Writerで？（見たの？）

ヒデオ

（指をクロスさせて）「X」な。そうそう、「ロリ太郎今昔物語」の方のアカウント見て

桑田

ああああー、しまった！初対面の時、教えちゃったんだった、昔のアカウント

ヒデオ

アハハハハハ…じゃ、一つください

桑田

いや売り切れです、完売、もうないんで！

ヒデオ

ええ！マジ？すごいじゃん、大人気だねえ

小森

いやすごいですよ

ヒデオ

ま、持つてるから別にいいんだけどね、ダウンロード版。

桑田

ええっ！

ヒデオ

ほら、今日も聞きながら来たから。（と、有線イヤホンの刺さったスマホを出してみせて）て、あ、

しまった、イヤホンが抜けちゃったー（と言いながらわざとらしくイヤホンを抜く）

ヒデオのスマホから、ロリエロコンテンツの音声で最大音量で再生される

桑田

うわあ、やめて止めて！止めて！

ヒデオ

アハハハ、ごめんごめん（と再生を止めて）、いや有線だとこれがあるからなあ…。でもほら俺、

音質とかさだわっちゃう派だから

小森

あ、これ「えつちなイヤホン」じゃないですか

ヒデオ

お、知ってるね。そち、バイノ。ラルつもの？「AM\$R」専用のやつ

小森

「AM\$R」ですわ

ヒデオ

それそれ。いや、俺、こつこの初めて知ったんだよねー、「オナサポ音声」って言うの？音だけで

抜くとか初めての体験でさ、こんな世界があるんだなーって…すごいよね、声だけだから、逆に？

本物の子供とエロいことしてるみたいでさ

小森

わかります？

桑田

結構流行ってるんですよ。作側のコネクトが少ないのもあって

ヒデオ

そちなんだ

小森

絵が描けなくても、シナリオだけあれば、あとは声優さんにお任せでできるんで。

ヒデオ

へえー

小森

まあ表紙とサムネ用に十枚絵は必要だから、この絵だけ、僕が描いたんですけど

ヒデオ

あ、そち。ちまいね。ただな、この音声聞いてるとさ、なんかどうしても、この絵の子じやな

くて、桑田ちゃんの顔が浮かんで来ちゃうんだよねあ…

桑田

ええー

小森 てか、ちゃんと使ってるんですね、夜のおかずに
ヒデオ あたぼうよ！てか、「それ用」につくったものを「それ用」に使わないとか、作品に対して失礼だ
お？

小森 たしかに
桑田 ううう…

ヒデオ いやあ、ほんと、人生何があるかわかんないよな…まさか、義理の弟が作ったロリエロ音声を使っ
て実の息子をしくく日が来るとは…

桑田 殺してくれー！
ヒデオ・小森 アハハハハ！

桑田 て、ていうか、ヒデオさん。この事って、姉ちゃんには…

ヒデオ ハハハ、言っていないよう…。あつたりまえだろ？

桑田 良かったー

ヒデオ 男と男の秘密さあ…てか澄太郎くんだって、俺が風俗行ってるの秘密にしてくれてんじゃん

桑田 まあ…

小森 え、お義兄さん風俗行くんすか

ヒデオ うん。今日も東京着いて、朝一で行って来たから。この後夜も行くし。

小森 すごいすね

ヒデオ 無理してんのよ。ほら、地方はいい風俗ないからさ。交通費分、元とらないとって。タイパ！コス
パ！

小森 はあー

ヒデオ ほち、令田こじ来るかもさ、今夜の予約、奮発してランドセル、オプシオンでつけちゃった。あ、
これ、マジ、ユキには内緒な？

桑田のスマホが鳴る

桑田 (スマホの画面を確認し) 姉ちゃんだ…

ヒデオ ええ！ユ、ユユユ、ユキ？ え、ちよ、出ないで

桑田 でも、姉ちゃん、出るまで無限にかけてくるし

ヒデオ 確かに。じゃ、いない、俺は、ここにいないから！

桑田 わ、わかりました

桑田、離れたところに移動して、電話に出る

音…電話に出る音

(小森とヒデオは、サイレントで即売会ブースを片付けながら、一旦去っていく)

1-4

桑田 もしもし…

ユキ、別場所に出てきて、電話で話している

ユキ あ…ああー、今日は一回で出てくれたね。

桑田 う、うん。だって、姉ちゃん、出るまでかけるから

ユキ そうだね、お姉ちゃん、出るまでかけるよね。だって…出て欲しいから。

桑田 う、うん。えっと、何？今、忙しいんだけど

ユキ 忙しいの？

桑田 えっちゃん

ユキ 何が？

桑田 いや、

ユキ 何が忙しいのかな、澄ちゃんは。田曜の車庫に、ん、そこ、お外だよ。わかるよ音で。家（うち）じゃないね。赤ちゃんと未生ちゃんお家に残して。お外で。何が忙しいのかな、澄ちゃん。お姉ちゃん、気になります。

桑田 仕事だよ。

ユキ 仕事……ザマンザマン……仕事……

桑田 ホントだよ、その、打ち合わせ……

ユキ 打ち合わせ……

桑田 用件は？用がないなら切るよ……

ユキ ヒデくんにかわって

ユキ え……いないよ？

ユキ ウフフフフ、かわいい。澄ちゃん、かわいい。……いないよ、だって（笑）

ユキ や、だって……いないから……

ユキ フフフ、ホントにいないなら、「え、いないよ」「なんて、澄ちゃん、言わない。」

桑田 ……

ユキ アハハハ、カワイいなあ、もう。そこで黙っちゃうんだから……。あのね、お姉ちゃん、今、そこで

黙っちゃったところで、確信したんだよ？……ヒデくんがそこにいるって

ユキ う、ぐ……

ユキ かけたの。カマ。フフ。

桑田 ……ごめんなさい、います。嘘つきました。

ユキ アハハ、いいよ。偉いな、澄ちゃんは、ちゃんと「ごめんなさい」できて。

ユキ あの、ヒデオさん、

ユキ あ、うん、ヒデくんに伝えてくれる？ちゃんと、スマホのGPSオンにしてって。

ユキ ええっ……

ユキ だって約束したから。むしろ「GPSで追跡してください！」って言ったのヒデくんの方だから。

ユキ ……

ユキ いや、言わせてないわよ？言わせてない。ヒデくんが自分で言ったんだから。「もう風俗には行きません、信じてくださいー」って。言いたくないなら言わなきゃいいのに……私、そういうあとから「言われた」って言う人大っ嫌い。

ユキ いや、俺は何も……

ユキ GPSはおかしいって思うかもしれないけど！「何がおかしくて何がおかしくないか」なんて、その家ごとに違って当然でしょ？麦茶にお砂糖入れるのとおんなじだから！……決めつけないでよ（涙）

ユキ いや、だから俺、何も言っていないって

ユキ でも思ったでしょう！……て、そっか。思っただけか。言っていないもんね。……じゃあ、いいや。ごめんね、大きい声出して。びっくりしたよね。大好きだよ、澄ちゃん。

ユキ ……俺、もう行かないとだから

ユキ そうだね、ごめん。じゃ、言っといてね、ヒデくんGPS。あ、……は……田曜とかお休みの田ほど、未生ちゃんと赤ちゃんと、一緒にいてあげないと駄目だからね。ほら、SNSに楽しそな写真流れてくるから、休みの田は。つらい気持ちになっちゃうやすすいかも。

桑田 うん……

ユキ あと、澄ちゃんの口座にお金振り込んだら、10万円

ユキ えーまた？なんで……

ユキ だってお金ないでしょ、澄ちゃん。未生ちゃんに美味しいものでも食べさせてあげて。自分の事に使っちゃ駄目だからね。

桑田 いや、もう、そういうのいいから……やめてくれよ

ユキ 必要ないなら、お姉ちゃんの口座に振り返してくれればいいから。じゃあね。ガチャ、ツーツーツー、……なんちゃって。（と、電話を切る。音：電話を切る音）

ユキ、去る

1-5

桑田 なんなんだよ…

小森とヒデオ、いつの間にか即売会の後片付けをし、帰り支度を終えてやってくる
小森は、即売会の荷物が入ったキャリーケースを引いている

小森 あ、いたいた

ヒデオ おーい、どうだった？

桑田 すみません、ヒデオさんいるってバレちゃいました…

ヒデオ アハハハ、やっぱり？ま、いいってことよ！

小森 いいんだ？

ヒデオ そんなことより、打ち上げ行こ、打ち上げ。飲み代くらい出るでしょ、完売したんだし

桑田 いや、完売って言っても全部で200個だから

ヒデオ え、200…えーと一個100円だから20万円？…それってどうなの？

小森 いや、即売会で200個売り切るのはなかなかですよ

ヒデオ ーでも、ネットじゃ何干って売れてるんでしょ？やらなくてよくない？即売会

小森 それはですね…

みずきが入ってくる。サングラスにマスクをし、明らかに変装していて、挙動不審
少しためらいながら、意を決して、桑田に声をかける

みずき あ、あの！

桑田 は、はい！

みずき 「桑名ロリ太郎」先生ですよね？

桑田 あ、は、はい！そうですけど

みずき すごい、アイコンの顔とおんなじだ！（※自分のスマホ画面と桑田の顔を見比べながら）

桑田 え、あ、そっ？

みずき はい！俺、その、ファンになりました。さっきこれ（CDジャケット）買った時は、いっぱい並んで
てお忙しそうだったんで、声かけられなかったんですけど

桑田 ああ、はい

みずき ダウンロード版で何回も聞いてて。これ、ホントに子供とその…エッチ、というか恋愛できてるみ
たいに思えて…こんなの他にないと思うんです！

桑田 ああー

ヒデオ わかるわー

小森 だよね、だよね

みずき はい！もちろん、声優さんのお力も凄いですけど、それ以上にシナリオの力というか…俺、いつ
か自分がリアルの子供に手を出すんじゃないかって、ずっと心配してて、でもこの作品に出会えて、
我慢できるって思えたんです！だから…

桑田 だから？

みずき これからも頑張ってください！！じゃー！

みずき、走って去っていった

桑田 ……

ヒデオ

え、え、すごいじゃん！ロリ太郎先生。熱狂的なファンいるじゃん！

小森

これこれ、これがあるから、即売会はいいんですよ！

ヒデオ

ええ？

小森

熱心なファンと交流することで、モチベーションも上がるし、彼らがあとで SNS に投稿したりして、

ネットでの販売数も伸びるんです！

ヒデオ

はあーあれだ、ファンサ？握手会みたいなことだ

小森

まさに！特に僕らみたいな「ロリエロ」のジャンルは、虐げられてますからね。こういう場で出会

って、団結してかなきゃ。「ロリコンだって人間だぞ」って

ヒデオ

いや、普通に人間だろ

小森

そう思わない人が多いってことですよ。こういうの（↑ロリ太郎作品 CD ジャケット）だって、有害

なコンテンツなんて言われてますけど、さっきの人みたいに、「ロリエロの作品があるから犯罪を犯さずに済んでる」って人はいっぱいいるんです！

ヒデオ

わかる。俺も風俗行ってるから、浮気しないままであるわ

小森

それはちよっと、よくわかんないですけど。僕らがロリエロ作品をつくるのは、リアルのロリを守る

為でもあるんですよ！だから、僕らロリコンは、常に、あの言葉を胸に刻みつけて生きているんです

どの言葉？

ヒデオ

…yes ロリータ…モタッチー

小森

…かっこいいね、君

ヒデオ

あざす！

小森

アハハハハハ！

ヒデオ・小森

よし、じゃ打ち上げ行こ打ち上げ

ヒデオ

普通に割り勘ですからね

小森

ええー？

ヒデオ

ヒデオ、小森、去る

取り残される桑田

桑田

当面の金を稼ぐため、「一度だけ」と思って手を染めた「ロリエロ同人」の世界だったが、俺には思いのほかその才能があったらしく、本業では手に入らないような額の金が、毎月口座に振り込まれるようになった。熱心なファンが何人もついて、次回作を期待しているという。正直嬉しかったし、楽しくもあった。自分の心の内に隠していた暗い欲望が、田の目をみて、同じものが好きな仲間達の共感を呼ぶ。素晴らしい事じゃあないか。

…だけど、何も知らず金を受け取るあの女と、いつかそっくりに成長するであろう「彼女」の顔を思い浮かべると、俺の心は言いしれない暗澹へと沈んだ。…yes ロリータ…モタッチー 唱えてみても、その暗い霧が晴れることはなかった。

桑田

1-6

振付の曲 11

【振付シーン※流れのイメージ】

「ロリエロ」ゾーニング肯定派のロリコンである小森が、「この指とまれ！」とロリコン達を集めるそこに群がる。3人のロリコン男達（みずき、野口、ヒデオ）達が登場。

男達は、桑田にも、仲間に加わるよう誘いかける。とまどう桑田。

迷ってる間に、いつの間にか、男たちのチームに加わるようになってしまふ桑田。

ロリコン男4人と桑田で、ポップに楽しく、可愛くロリコン音頭を謳歌する。まるで2010年代のラノベ全盛期のような「明るく楽しいロリコン向けコンテンツ」の雰囲気を行彿とさせる。「楽しい、やっぱりこれで良かったんだ!」と感じて明るい表情の桑田。

4人のロリコン達が一人ずつフイーチャーされてポーズを取る。

最後に桑田の番が来る。桑田もロリコンとしてポーズを取る。

それはたまたま、「ロリ」として見ても可愛いポーズだった。

桑田を見て、彼が「女子小学生」の姿をしている事に気がつくロリコン男達。

桑田に性的な視線を向けて手を伸ばす男達。

怖くなって逃げようとする桑田を、逃さないように掴む男達

暗転

2-1

明かり」

舞台には小森が一人立って客席を見ている
まるで、舞台上で一人立ち話す、海外の講演会のような雰囲気

小森

：人はいかにしてロリコンになるのか？最近の研究では、その問いかけ自体がナンセンスであると知られている。ロリコンは、「なるものでなくそう生まれるもの」、生来の特質であり、あとはいつそれに気付くかというだけの話だ。

小森

僕の場合は、高校1年の夏だった。友達が回し見するいわゆるセクシー女優達のアダルト動画に『』も興味を持てずにいた自分が、ある日部活の先輩に見せてもらった、違法アップロードのロリエロアニメに「これだ！」と閃くものがあった。自分がロリコンだと気付いた瞬間だった。

小森

多くのロリコン達が、このくらいの年齢、15歳から19歳位までの間にそれを自覚するという。つまり、自分が対象とする少女：ロリと恋愛するのが決して許されない年齢になって、初めてそれに気づくのだ。一体何の罰ゲームだろう…。

小森

僕は、そんなロリコン達の心を救う避難所として、ロリエロ作品をつくり続けている。彼らの欲望が現実の少女を傷つけぬよう、夢の中に封じ込めているんだ。それなのに、いわゆるフェミニストのオバチャン達は、「そういう作品がロリコン犯罪者を生み出す」とか言って、僕らを追い詰める。

小森

避難所を追い出された僕らがどこへ向かうのか？何故それが想像できない！？犯罪者を生み出しているのは、むしろアンタ達だよ！そう言いたい。

小森

ロリコンの気持ちを担当に理解できるのは、ロリコンだけだ。だから、ロリコン達は団結しなければならぬ、寄り添わなければならない、いつかロリコン男達だけの国をつくりたい…それは、ちよつとイヤだな。だけどせめて、この世界の片隅で、ほんのひとときロリの魅力を語り合い通じ合う、僕らのことをどうか、そっとしておいて欲しい。ゾーニングされたってかまわない、だからどうか…そっとしておいて欲しいんだ。

「ロリコンとうさん」

2-2-1

いつの間にか、場所はファミレスになっている

ボックス席に陣取り、即売会の打ち上げをしている桑田、小森、ヒデオ、野口
ヒデオは早くも酔っ払っている

桑田

ほんと、お願いしますよ、ヒデオさん。絶対、ぜーったいに、俺がエロ同人やってることは、姉ちゃんにバレないようにしてください

ヒデオ

わーってる、わーってるよ…俺はなにもかもわーってる

桑田

何もわかってない…！

小森

まあ、親バレ、家族バレは致命傷になりますからね

ヒデオ

そつなの？てか、打ち上げなのに、なんでみんなドリンクバーなの、俺だけじゃん酒飲んよもの

小森

いや、僕たち飲めないんで

ヒデオ—— ええ？

小森—— いや、多いんですよ、ロリコンで酒飲めない人って

ヒデオ—— 関係ないだろ、ロリコンと酒

桑田—— たぶん、飲めないんじゃないかって、飲まないんだよ。

ヒデオ—— なんだ？

桑田—— 理性を飛ばしたくないかも

ヒデオ—— へー？

野口—— アハハハ、いやあ、楽しいですねーやっぱ同人即売会の打ち上げは、ファミレス飲みと相場が決まってる

ヒデオ—— てか、え、誰だっけこの人？

小森—— だから、さつきも言ったじゃないですか。特別スペシャルゲストの野口さんですよ
ヒデオ—— 特別スペシャルゲスト？

小森—— 僕の支援者さんです。前やったクラファンのリターンで

野口—— ええ、買わせていただきました。即売会後の打ち上げに参加する権利、10万円

ヒデオ—— 10万円ー？

野口—— アハハハ、即売会は推しの絵師に会える唯一の機会ですからね。今作のこのイラストも素晴らしかったですよーあ、もちろん、中身の作品もですが！

桑田—— ありがとうございます！

ヒデオ—— てか、10万で。もっと良い使い道あるだろーえ、金持ちなの？お金捨てたい病？

野口—— いや、別にそんなじゃないですけど

小森—— いや、金持ちでしょ、働いてないんだから

ヒデオ—— え、働いてないの

野口—— 人間が悪いですよ、小森さん。大家さん、してるんです。アパートの。親の遺産で

ヒデオ—— やっぱ働いてないじゃん

野口—— まあでもカツカツですよ、アツハツハツハ

ヒデオ—— (嫌そうな顔)

ファミレスバイト店員の格好をした七海がやってくる

七海—— あのお客様、他のお客様もいらっしやるので、ちょっとお静かにお願いします

野口—— ああ、失敬、あんまり楽しくて

小森—— あ、追加の注文いいですか

七海—— ごめんなさい、よければタブレットの方からお願ひします (※テーブル備え付けタブレット)

ヒデオ—— え、いいじゃん、ついでに

(微妙な顔で首を横に振って拒否して、)ごめっくりびごうぞ

七海、去る

ヒデオ—— ええ？

小森—— 舐めてますね。ロリコンだと思って馬鹿にしゃがって

ヒデオ—— いや、ロリコンだとは思ってないだろ

(タブレットを手に取って) 店員呼び出しボタン、連打してやる

桑田—— や、もういいよ。俺、これ飲んだら帰るし

野口—— え、帰っちゃうんですか？まだ宵の口じゃあないですか？

桑田—— すみません、妻と赤子がいまして、子供、お風呂に入れたりしないので

野口—— なんと、それはうん、帰らねばですか

桑田—— すみません

ヒデオ—— え、娘ちゃん、お風呂入れたりしてるんだ、ロリ太郎先生

桑田 えーまあ

ヒデオ 大丈夫？それ？欲情しちゃったりしないの？実の娘に（笑）

桑田 や、その、まだ赤ちゃんだし

ヒデオ すぐ大きくなるでしょ

桑田 そう…ですね

嫌だよ、ニユースでロリ太郎先生の名前見るの、アハ、アハ、アハハ

ヒデオ ……

まあ、でもちよつとわかりますよ

野口 え？

もし自分が結婚して、大好きな人にそっくりな小さい女の子と、一緒に暮らせることになったらしたら…、やつぱり、少し怖いです

…何がですか？

野口 自分が。実の娘に対して、邪な思いを抱いてしまうんじゃないかって。そんなこと絶対したくないのに…。

ヒデオ

わかるーわかるよ。だからさ、ロリ太郎先生もさ、娘ちゃんがある程度の年齢になったら、ロリコンを卒業した方がいいんじゃないかな？

桑田 ロリコンを卒業する…？

ヒデオ そう！これからは大人の魅力にも目を向けて行こうって

小森 そんなの、できるわけじゃないじゃないですか！

ヒデオ いやわかる、わかるよ。俺だって何度風俗行くのやめようとしたことか。でも、できなかった。風俗はもう、俺の体の一部だからさ

小森 そういふ問題じゃなくて！

七海がやってくる

七海 あのー、ほんと、他のお客様もいますんで…

小森 だから、追加で注文

七海 それはタブレットで…

ヒデオ いや、聞けばいいだろ、来たんだから

七海 ワンオペなので

桑田 ええっ？（この広い店内を…？）

ヒデオ いや、聞けよ。お客様は神様だろ！

七海 え、神様？

ヒデオ そうだよ

七海 では神様、（目を閉じ拝みながら）どうか私の願いお叶えください…お静かにお願いします

小森 はあ？

野口 あ、じゃあ、こういうのはどうでしょう？僕らが頼みたいのは、タブレットじゃ注文できないものなんです

七海 え、それは何でしょう

野口 あなたの笑顔です！

七海 ……（かなり特徴的な笑顔で、野口に笑いかける）…ごゆっくりどうぞー

七海、去って行った

野口 え…

小森 は、なんすか、今の

ヒデオ 全然対応違う

小森 完全な「ただイケ」じゃないですか「ただイケ」！

ヒデオ 何「ただイケ」って

小森 「ただしイケメンに限る」ってやつですよ。クウーツ！差別だ！ロリコン馬鹿にしゃがってや、この人（野口）もロリコンでしょ？

桑田 あの、俺、ほんと、そろそろ帰らなきゃなんで（立ち上がる）

ヒデオ あ、そう

野口 すみません、なんかお引き止めしてしまっ

桑田 いえ

ヒデオ ああー、てか、俺もそろそろ予約の時間だわ、一緒に出ようかな（立ち上がる）

帰り支度をする二人

野口 今日はどちらの風俗に行かれるんですか

ヒデオ 五反田だよ。やっぱり安いからね、オプションつけたい時は基本が安いとこじゃないと勉強になります

野口 じゃ、行くこう。ロリ太郎くんはロリとお風呂に。俺は合法ロリとお風呂に！なんつって、アハアハそれじゃあ

野口 あ、ロリ太郎先生、よかったら連絡先交換してもらっていいですか

桑田 あ、はい。LINEでいいですかね

野口 LINEで

スマホを取り出して、友達登録をする二人

野口 ありがとございます。またご連絡します

小森 お金出してくれるから、何かあったら

桑田 あ、そうですか、ぜひ

野口 アハハハ、何かあれば言ってください。（指でお金の形をつくって）余ってるんでちっ、働いてないくせに

野口 いやあ、前は職にもついてたんですけどね

小森 あれ、そうなんですかはい

野口 何やってたの

野口 ……聖職者、ですかね

ヒデオ 聖職者？

小森 神父様…とかですか、教会の

野口 まあ、そんなところで

桑田 あの、じゃあ、ほんと俺、行きますんで、ていうかお金

野口 あーいいですいいです、大丈夫

小森 今日、僕ら（小森と桑田）、野口さんの奢りだから

桑田 え、そんな、あの、ありがとございます

野口 いえいえ、とんでもない

ヒデオ ごちそうさまでーす！

小森 あ、ヒデオさんは割り勘なんで

ヒデオ ええー…？（と言いながら、しぶしぶ財布を取り出して開き）ええー…（と言いながら、しぶしぶお札を取り出して、）ええー…？（と言って首を傾げながら、さりげなく退店する）

小森 あ！逃げた！

野口 まあまあ、いいですよ

桑田 ほんと、すみません、じゃあ

桑田、帰っていった
席に落ち着く小森と野口

野口 二人だけになっちゃいましたね
小森 ええ。ま、独り身のロリコン同士、しっぽり飲むとしましうか
野口 ですね！ソフトなドリンクを！

2-2-2

志織が入店してくる

志織 あ

志織、野口をみつめて野口の隣に座ろうとするが、野口が志織と目を合わせないまま、すかさず席を移動し座らせない。
そんな野口を表情なくみつめる志織
間近で野口を見る志織と、それに気が付かないフリをする野口に違和感しかない小森

小森 え？
志織 遅いんで迎えに来ました

野口 ……
小森 え、知り合いですか？
野口 全然
小森 え？

ほら、帰りましょう野口さん。今日ごはんつくってあるので
(志織と目を合わせない)

野口 いや、え、知り合いですよう？野口さんって言ってますし
小森 のぐち…サン？…太陽？
小森 いやいやいや
志織 どうしたんすか、ひょっとして、昨日の夜のこと気にしてるんですか？
小森 昨日の夜？
野口 アハハハ、いやあ、楽しいですねーやっぱ同人即売会の打ち上げは、ファミレス飲みと相場が決まってる

いや、無理でしょ。ごまけないでしょ、それじゃ
(野口を見たまま、ノールックで桑田が残っていたソフトドリンクのコップを取って飲む)

七海がやってくる

七海 えーと、新規で1名様ですか？
志織 あ、いえ、すぐ帰りますんで
七海 いや、でも(控えめに志織が持っているコップを指差しながら)、ドリンクバーは、共有がNG(↑指でXをつくりながら)でございまして
志織 だからなんです？
七海 新規でご注文をいただかないと…ね？(野口の方に目配せ)ね？

野口 ああ、はい、すみません。あの頼んどきますんで、タブレットで
七海 (嬉しそうな笑顔で、それぞれ、という風に野口を指差す…が野口の顔を見て固まり)…え？
野口 どうかしましたか？

七海 あ、いや…なんでもありません！(照)

七海、何故か照れながら去る

小森 なんすか、あれ？

野口 ……

志織 さ、野口さん、ほんと、もう帰りましょ。帰って寝ましょ。大丈夫ですよ、私、昨日は何も見えないんで

野口 そ、そっか！

志織 はい。ベッドの下から出てきた、外国人の子供の女の子の裸の写真が載ってる雑誌とか、まったく

野口 (苦そうにうつぶむく)

小森 え！ 野口リですか？ ていうか三次の？ いや、それ犯罪ですよ今？ 単純所持

野口 昔買って、捨て忘れてただけです。

志織 いやいや、あの家私んちですから。無理あるでしょ。明らかに持ち込んでるじゃないですか

小森 ええ……？ (十人をかわるがわる指さして、向棟してるとっばい事を確実に察しました顔)

志織 それとも、別の理由ですか？ 家帰れないのって。昨日、あの雑誌見つけたあと、私が野口さんに、わあーああーああー、(〆)チェックワンツ、チェックワン・ツー…：ただいまマイクのテスト中です。ピーー…あ、腹が、ピーー、う…：) 私、ちょっとトイレに行ってくるであります！

小森 え、大きい方すか

野口 …：大は小を、兼ねる

野口、トイレの方へ去って行った

小森 ええー？

志織 ていうか、あなたのせいですよね？ 野口さんがあんな雑誌読んてるのは？

小森 え、え、僕のせい？

志織 はい。えっと、「小森ズッポリ」さん？

小森 「ズッポ氏」です。ズッポに氏(うじ)でズッポ氏、て、知ってるんですか、僕のこと

志織 はい、野口さんがいつも見てるんで。パソコンであなたの…：なんかお金取るやつ

小森 ファンティアですか

志織 それです。ていうか、やめてもらえます、ああいうの…

小森 ええ？ いや、なんで？

志織 あなたがああいうイヤラシイ女の子の絵を描くから、それを見た野口さんが、あんな雑誌読むようになったんじゃないですか

小森 いやいやいや、野口さんは元々ロリコンで、

志織 言い訳乙です。あなたが描いた絵を見て、リアルの子供に手を出す人が出てきたら、どう責任取るつもりなんですか？

小森 いや、みんな、現実とファンタジーの区別くらいいついてるよ

志織 そりゃ、あなたやあなたのまわりにいる人…：ほとんどの人は「現実」と「ファンタジー」の区別がつくんでしょうよ。だけど、もしその中から一人でも現実に加害をする人が出てくるんだとしたら、やっぱりそこは、規制が必要になるんじゃないですか？

小森 そんなの…：一人でも交通事故で死んだら、車は全部ない方がいいって言うてるようなもんじゃないか

志織 いや、車は役に立っんで

小森 ロリエロだつて役に立ちますよ！

志織 は(笑) 何のです？

小森 ロリエロのコンテンツがあるから、それを見て我慢して、犯罪を犯さずに済んでるロリコン達がいっぱいいるんです！

志織 はあ？ それって何かデータとかあるんですか？

小森

すぐ出せるようなものはないけど

志織

だったら、それってあなたの感想ですよね？嘘付くのやめてもらっていいですか？バカなんです
か？

小森

こいつ喋り方ムカつくなあ！

志織

嘘乙！…エッチなのはいけないと思いまーす

野口が帰ってくる

野口

(ex:やあ！待たせたね、ボーイ達、ガール達)

小森

(ex:一人ずつしかいないですけど)

野口

アッハッハ、)

小森

え、ていうか誰なんですか、こいつ？

志織

こいつ言うな。ただの同居人です。野口さんの。

小森

同居人？

志織

はい。野口さん、家ないんすよ。アパートの部屋全部貸しちゃって

小森

ええ？なんすか、それ。クレイジーですね

野口

いやあ、お恥ずかしい。ちょっととうっかりして…

志織

だから、しょうがないんで、家(うち)に泊めてあげてるんです、もう半年くらい

小森

ん、つまり、お二人は付き合ってるって事で間違いないですか？

志織

だからそういうんじゃないんです。…昨日の夜までは

小森

え？

野口

ああー！ああー！(ex:大変だ！こりや、一大事、命が一大事であるぞ。ちょっと、僕、さっき道端

に捨てられていた猫が雨に濡れぬよう、コンビニで傘を買って、差し掛けて来るといふミッション
があったのを忘れていたでござる。ちょっと、行ってくるでござる。必ず帰ってくるので、二人は
ここで待っているでありますよ！)

小森

(ex:いや、猫なんてどこにもいなかったじゃないですか？)

野口

(ex:…大切なものは、目に見えないんだよ。)

野口、退店していった

小森

え、あれ、もう絶対帰って来ないやつじゃん

志織

大丈夫ですよ。他に行くあてなんてないんだから。

小森

ええ？

志織

まったく…(ex:捨て猫に傘だなんて)…優しいんだから

小森

(→表情だけでリアクションした後)、…てか、何があったの、昨日の夜

志織

別に何も

小森

どうせエッチな事だろ？

志織

はあー？

小森

スケベな事したんだろって言ってんだよ

志織

(平手打ち)、それセクハラですから！

小森

痛っ…ちよ、加害だぞこれ！

志織

野口さんに言いますよ？

小森

え？

志織

野口さんが高額課金したお金でロリコンしてる小森さんが私にセクハラしましたって、言います

小森

ん、ん……ごめんなさい、許してください

志織

別にいいですけど

小森

いいんだ…

志織

何もしてませんから、ほんとに

小森 わかったよ

志織 ほんと…どうしたらいいんでしょう

小森 何が

志織 どうしたら…してくれるんでしょう

小森 してくれる？

志織 エッチなこと

小森 …はああ？…？

志織 頑張つてエッチな雰囲気出して見たのに、野口さん、私には指一本触れなくて。なのにあんな雑誌は読んでて

小森 それは…やっぱ、ロリコンだからなんじゃない？

志織 やっぱりあなたのせいじゃないですか！

小森 だから、なんでそうなるんだよ！

志織 …フンッ、今日のところは、これくらいで勘弁してやらあ

志織、退店する

小森 ええー？…って、あ…誰もお金置いてってない！…はあ、すみません、お会計お願いします！

七海 七海出てくる

七海 はい、あ、あのお会計は、あちらのレジでお願いします。…ファミレスなんで。

小森 だよね…

七海 はい

小森、レジのある入り口方向へ去っていく

七海 ありがとうございますー

七海、テーブルを拭いたり片付けたりする

片付いたところで、去る

誰もいない店内

間があつて、変装をしたみずきが、キョロキョロと空席を探しながら入ってくる

みずき、さつきまで小森たちが座っていた席に座る

みずき、スマホを取り出して画面を操作したあと、有線イヤホンを耳に入れて視聴目を閉じて、桑名ロリ太郎作品を聞いている

そこに、アルバイトを終えたファミレス店員の七海が、私服に着替えてやってくる

彼氏であるみずきが迎えに来てるのを発見し、嬉しそうに向かいに座る

音源に集中していて、七海に気が付かないみずき

七海はみずきの正面で、その顔をニヤニヤしながら見ている

やがて、目を明けたみずき、目の前に七海がいてびっくり

みずき わあ！七海！

七海 うん

みずき、慌ててスマホを操作し、エロ音声をストップする

みずき

え、いつから？

七海

1万年と2千年前から

みずき

そ、そうか。もう終わったの、バイト

七海

うん。帰る？

みずき

あ、ああ

七海、スキップしながら退店

2-3

照明変化

再び、海外の講演会のような雰囲気

客席に向かって語り始めるみずき

みずき

「欲望とは、それを手に入れるまで不幸であることである。…ナヴィル・ラヴィカント。」あ、どうもすみません、急にしゃべって。みずきと申します。ご多分に漏れずロリコンです。ハハ！

みずき

まあでも、別に「ロリコンであることが俺のすべて」ってわけじゃなくて。たくさんあるアイデンティティの1つに過ぎないって思ってます。だって、みんなわざわざ言わないだけで、変わった性癖の1つや2つ抱えてるでしょう。嫌いなんですよね、「ゴ」考えずに大声でそういう話する奴ら。

みずき

話がそれましたけど。僕なんかは、普通に成人してる彼女がいますし。ロリコンがロリとしか付き合えないって思うのは良くある誤解で。ちゃんと彼女の事を愛してるし、結婚だってしたいと思ってます。

みずき

え、ロリコンだって事を彼女に言ってるかどうか？ …言うわけじゃないですか。困るでしょう、言われても。それはそれ、これはこれです。ロリコン方面の欲望は、ネットで動画見たり、同人作品読んだり、聞いたりして、満足してます。今のところ、それで、人生何の問題もないんで。

みずき

…って、まあ、思ってたんですけどね。はあ…。やっぱり、考えるわけですよ。いつか自分は死ぬわけで、その時、後悔しないのかって。本物のロリを、子供を抱かずに一生を終えていいのかってすみません…。でもやっぱり、「2次元で満足できる」なんていうのは、結局、モテない「童貞ロリコン」の意見なんじゃないかなあ。

みずき

普通にモテて、色んな女の子と付き合ったら、やっぱり「次はもっと好みの子とやりたい」って気持ちがあんだんどんクリアになっていくわけで…そんなものをロリコンの俺が突き詰め始めたら…そんなもん、行き着く先は決まってるわけですよ…。

2-4

七海、みずきのスマホを見ながら入室してくる

みずき、それに気付いて七海に近づくと

みずき、笑顔で円満にさりげなく、七海が手に持ったみずきのスマホを奪い返そうとする

七海、エヘエへと笑いながら、楽しそうにみずきの手をひよいひよいとかわす

でも割と絶対に取りられないようにという確固たる意思を感じさせる七海

傍目には恋人同士のスキンシップのようにも見えるが
しだいに熱を帯びていく攻防

最初は嬉しそうにみずぎを押し戻していた七海だが、だんだんとシリアスマが増し、最終的には、真顔で床にみずぎを投げ倒す
荒くなった息を整える二人、目が合う

みずぎ

はあはあ…

七海

怒らないから正直に言っ

みずぎ

それ「正直に言わないと怒るぞ！」って意味じゃん

七海

…うん

みずぎ

それってさ、七海がいつも「嫌だ」って言ってる「不機嫌で相手をコントロールする人」なんじゃないの？

七海

確かに

みずぎ

やめなよ。そんなの。やだよ、俺…こんなことで、七海がそんな、自分を嫌わなきゃいけない

七海

ような、人間になっちゃうのは。

みずぎ

みずっち…。

七海

愛してる。だから、ごはん食べ行こう…？ほら、それ返して（とスマホを奪い返そうとするが）

七海

ううん、だまされない

みずぎ

だましてない、本気なんだ。好きだよ、七海、いつか結婚しよう

七海

じゃあ誰？この子？

みずぎ

え、誰？何のこと？

七海

見る。（スマホの画面を見せて）

みずぎ

ん？んん？（目が霞んで良く見えない、という風に目をこすりながら）

七海

目ん玉かっぼじるぞ。

みずぎ

ええっ…ああ、これね、…妹

七海

みずっち、妹いたんだ

みずぎ

うん、いたんだ実は

七海

でも、おかしくない、これ？

みずぎ

ん、どこが？

七海

ここ。「何歳？」って。「マイちゃんは今何歳？」って。聞かないよね、歳。妹に。

みずぎ

え、聞かない？

七海

聞かない。あとここ「何年生？」って。え、何年生？妹に学年聞くことある？

みずぎ

あるよ。みんな聞くよ。

七海

じゃあこれは？「ねえ…もっとエッチな写真送ってよ」「…て、まあ、あらまー、きゃー！…って、ええ？妹に！？」

みずぎ

シスコン、なんだ、俺

みずぎ

ん…無理。ダウトー！マイちゃんは、妹じゃありません。

七海

ちっ…やはり気づいたか。さすがはお前だよ。七海。

みずぎ

えっへん。…て、え、なんですかー？浮気？浮気ですか？

七海

いや、ちやうねん。

みずぎ

何がちやうねん。浮気やん。エッチな写真言っとりますやん。

七海

思ってたんと違っただよ。年齢も予想と違っ

みずぎ

え、（スマホを見て）17歳？まあ、確かにちよっど若過ぎるか。

七海

…うん。

みずぎ

ていうか未成年じゃん。え、未成年にエッチな写真を送らせるのはダメでしょ、違法行為。

七海

だから、実際送ってもらってないし。やりとりもほら、年齢聞いたあととは、こっちから送ってない

みずぎ

だろ。

七海

たしかに。って、それはそれで、なんかひどくない？年齢聞いた瞬間に音信不通って。

みずぎ

しょうがないだろ。だって、俺が好きなのは…

七海

？

七海

？

好きなのは…七海なんだから

……

……

(両手でほっぺたをつねる)

え、なんで？

ニヤけると、喜んでるのがバレちゃうでしょ？

それ言った時点でバレてるから

えへへ。…私、むっっちゃ怒ってるんだからね。こっぴどく見えて。

知ってる。

うん。

だけど、ほんとこれ…浮気とかじゃないから。

知ってるよ。

え？…何が？

さあ？

俺、七海のこと、ホント、世界一好きだから。愛してるから。ずっと一緒にいたいし、一生一緒に

いたいし、いなくならないでくれえ…って、毎日思ってる

…だから知ってるって

うん

よし、じゃあケンカのアとは、最高に盛り上がると巷で噂の「仲直りセックス」でもいたしましょ

うか？

……

ん？ん？

(少し明るく) だから、おまえそういう事言うなよ？萎えるだろ、逆に

ええー？ちよつと無理して下ネタ言ってるところが、またたまらなく可愛いんですよが！

そのとおり！…へっへっへ、後悔させてやるぞー！(と、七海をいざない寢室へ向かおうとする)

キャッ、キャッ！

今夜は寝かさねえから

あ、明日バイト早番だから1:30までには寝たいんですけど

調整します

「ロリコンとうさん」

二人、去っていった

みずき、すぐに戻ってきて、再び客席に語りかけ

みずき
もちろん、彼女のことは愛してるし、ずっと一緒にいたいって思ってる。だから、このあとめっちゃくちやセックスだってします。だけど、きつとまた俺は、リアルで出会える女子小学生を探そうとしてしまうだろうし、日に日にそれは、ギリアウトの境界線に近付いて…あーあ、いっそ東南アジアに少女買いに行こうかな、なんて。口をついて出てしまっそうで。ほんと、どうしたらいいんでしょうね。

みずき
ロリエロのコンテンツをつくる作家さん、クリエイターさんは、こういうモヤモヤを作品に昇華して、なんならお金までもらえてるわけで、羨ましいですよ。金をもらえてるって事はつまり、社会の、誰かの役には立ってるわけ。俺なんかと違って、「ロリコン」であることがちゃんと、自分と誰かを結ぶ「絆」になってるわけですから。

みずき去る

桑田の家

帰宅した桑田、こそそと中をうかがいながら入ってくる
未生と娘は寝てるのだろうか…と、キョロキョロ家の中を見回していると
不意に未生が隣室からあらわて、

未生 おかえりなさい

桑田 わ、た、ただいま!

未生 シー。今、寝たところだから

桑田 …ごめん

未生 ごはんは?

桑田 あ、食べてきた。その、打ち合わせで。

未生 そう

桑田 ごめん、遅くなって

未生 ううん

桑田 大丈夫だった?

未生 何が?

桑田 いや、一人で

未生 そうか:

桑田 (首をかしげる)

未生 どうした?

桑田 別に気にしなくていいんだよ?

未生 え?

桑田 遅くなるの。だって、家にいたらお仕事できないでしょ? 書けないじゃん、何にも。うるさくて

未生 いや、そんなこと…あるけど

桑田 ほらー。大丈夫だって。今、お母さんも時々来てくれてるし、それにあの子、ものすごく良く寝る

未生 子だから…あなたは何も心配しないで、お仕事に集中してください

桑田 うん…

桑田 (手を伸ばして、桑田の頭を撫でる)

未生 (しばらくの間頭を撫でられ、撫で続けられながら)…今日、姉ちゃんから電話あったよ

未生 コキさん?

桑田 うん…また、お金振り込んでくれたみたいで。10万円

未生 ありゃ…ありがたいけど

桑田 うん、ありがたいけど…

未生 別に断っていいからね。お金なら私がなんとかするし

桑田 なんとかって?

未生 なんとかは…なんとかだよ。わかんないけど。なんとか

桑田 とりあえず、今回はもらうところ。明日、下ろして持ってくるから

未生 うん…ありがとう

桑田 あと、これも(金の入った封筒を取り出す)

未生 なに?

桑田 お金

未生 え、(受取り、中身をさっと見てから)ありがとう…

桑田 うん。またあと20日くらいに少しはいるから、また持ってくる

未生 (微笑んでうなづき、その後無言で桑田を見ている)

桑田 え、何?

未生 ちよつと無理してる?

桑田 え?

未生
 桑田　ごめん、私、行くね？
 未生　…あ、うん、外で電話してくる
 うん。

未生、赤子のいる寝室へと去る
 未生を見送ったあと、桑田、移動し電話に出る

2-6

コキ、出てくる

桑田とは違う場所で電話をしている

桑田　もしもし

あ、夜分にごめんね、まだ起きてた？

うん、大丈夫だけど。どうしたの？

ヒデクんの事なんだけど

あ、うん

ヒデくんがね。今もちゃんとGPSオンにしてくれてるんだけど。五反田にいるみたいなの。

五反田？

うん。五反田の、レンタルルームっていうのがたくさん入ってるビルで、今3時間以上動いてなく

て…何か知ってる？

知らない！

即答だなあ

ホントに何も、何も知らないから、俺

必死…(笑)　大丈夫だよ。無理矢理言わせたりしないから。男と男の約束なんでしょう？

え？

「えっ」って(笑)　やっぱそうなんだ

いや、そんなことはない！

調べてみたらね、そこ、五反田にある大体の風俗の…デリヘルの？派遣型の、お店のホームページ

でオススメしてくれてるルームで。お部屋に入ったらお電話くださいのやつで

詳しく過ぎるよ姉ちゃん

フフフ、好きな人の事だもの。好きな人の好きな事は何でも知りたいから…って、んなわけあるか

ーい！アハハハ、ブツ殺すぞてめえ。

ええっ！

あんまりふざけないでもらえるかな？

いや、ふざけたのは姉ちゃんの方

そうだね。ごめんね。お姉ちゃん、ふざけたね。ちよつと動揺してるんだな

ちよつとかな…いや、でもさ、まだわからなくない？ほら、そのレンタルルームってのにただ泊ま

ってるだけかもだし、安いからとかで

アハハハハ。澄ちゃんてば優しい…とっても優しいんだなあ…だけどそれは優しさじゃないよ、「優

しい嘘」なんてのは、全然優しくないんだから、ただのその場のぎだから

…ごめん

謝れば済むと思って！

…

でも謝らないより全然マシ。偉い！

どっちだよ

どっちでもいいの！ヒデくんが風俗に行こうと行くまいと

コキ

桑田

桑田

え、そうなの！

ユキ

うん。お姉ちゃんが許せないのは、ヒデくんが、別に私にバレてもいいって思ってる事なの。普通

桑田

切り忘れる？GPS。私が見てるって知ってるのに

ユキ

ああー、いや、相当酔っ払ってたからなあ…

桑田

切つてよ、酔っ払つてても、せめて！もしくは「位置情報偽装アプリ」を入れるとか！金属製の箱

ユキ

にスマホを入れるとか、ちよつと手間をかければ済む話じゃない！

桑田

なんか知識が怖いよ姉ちゃん

ユキ

もういい…夜遅くにごめんね。あ、お金ちゃんと口座に届いてた？

桑田

え、あ、うん

ユキ

自分の事に使っちゃ駄目だよ。じゃあね。

電話を切る音

ユキ

ユキ、去っていった

桑田

…なんで、離婚しないんだろう？

桑田、スマホをしまう

すると、

2-7

再び、桑田のスマホが鳴る

桑田

もう、なんなんだよ（と、スマホを取り出して見ると）…って、え、野口さん？

電話に出る音

野口

野口、スマホを耳にあてながら別箇所に出てくる

桑田

はい、もしもし

野口

あ、夜分遅くにすみません、野口です。ロリ太郎先生ですか？

桑田

あ、はい、そうです

野口

すみません、急なご連絡で

桑田

いえ、どうしました？

野口

いや、あの…ご存知ですか？

桑田

え、何がです？

野口

あ、その様子だと、まだご存知ない感じですね

桑田

え？

野口

実は、逮捕されちゃったみたいなんですよ、小森さん、警察に

桑田

ええっ!?!?

照明変化

(※桑田は去る)

再び、海外の講演会のような雰囲気
客席に向かって語り始める野口

野口 どうも、皆さんこんにちは。野口です。ロリコンです！

野口 ところで、皆さんはご存知でしたか？今の時代、「子供の裸の写真」は、持っているだけで罪に問われるということ。もちろん「性的な興味を満足させる目的で」という条件がついてるので、「お子さんのお風呂の写真」とかだったら大丈夫かもしれません。

野口 でもたとえば、僕に、「既に成人してる大人の女性」の恋人がいたとして、その人が「自分の子供の頃の裸の写真」を僕にくれたとしたら、わかりますか、理屈の上ではこれ、僕も恋人も両方「違法」になるんです。それぞれ2015年に罰則施行された改正「児童ポルノ法」の「単純所持」と「製造」という罪に問われます。

野口 おかしな話と思いませんか？ 「性的同意」が可能な年齢の大人が、「自分が子供の頃の裸の写真」を、同意の上で性的視線にさらす、そこに一体何の問題があるんでしょう？

野口 そこにあるのは、「被害者の保護」という大義名分を笠に着た、価値観の押し付けです。すなわち「子供は性的な存在であってはならない」という、「宗教観」と言ってもいい。

野口 皆さんだって、薄々は知ってるはずなんです。ご自分もかつては子供だったんですから。つまり：子供だって恋をする事があるし、性欲だってある！…子もいる！まずそれはただの「事実」として認めた上で、「絶対に子供に手を出すべきではない」とそう言えればいいだけの話なんです。

野口 …とまあ、これはただの僕の個人的な意見で、特定の団体、作品全体の貫いた主義主張じゃありません。あくまで僕といち登場人物十人の意見だといふ事は、どうもお忘れなく。

「ロリコンとうさん」

野口 ただ、「目的が正しければ手段は間違っていない」なんて考え方は、絶対にいつか「正しさ」の足を引っ張ります。「悪法も法」なんて言葉がありますが、魔女裁判はもうたくさんだ。ただ「科学的」にやって欲しい…僕が言いたいのはもう、それくらいなんです。

再び例のファミレス。ボックス席に座る桑田、野口、志織
ドリンクバーを飲みながら作戦会議のような様子

桑田 えっとつまり、小森が捕まったのは

野口 「単純所持」です。子供の、二次の子供の児童ポルノです…その、動画とか画像とか。

桑田 あいつ…二次元にしか興味ないとか言ってたくせに

野口 まったくですね…まあ、でもよかったですよ

桑田 よかった？

野口 はい…最初に聞いたときは、もしかして、リアルの子供に手を出したんじゃないかって、ちょっと

思ったので

桑田 ああ…あいつが描いてる作品で、そっち系ですからね。

志織 どっち系なんです？

桑田 え…いや、その

志織 どっち系なんですか野口さん？

野口 ……凌辱系だよ。ゆきずりで子供を襲って、その

志織 レイプするんですね

野口 ……(頷く)

志織 はあ…(ゴキブリを噛み潰したような顔)

桑田・野口 ……

ファミレスバイト店員姿の七海、やってくる

が、特にテーブルに声をかけるわけではなく、通り過ぎざまに野口の顔を見て、何かを考え無意味にまた反対から歩いて戻って、テーブルの前を通り過ぎざまにまた野口の顔を見て何かを考えて、去る

※三人は、特に七海の行動を気に留めていない

野口 弁護士さんが言うには…あ、僕が紹介した方なんですけど、普通に一晩泊まって帰って来れるし、おそらく罰金刑で済むだろうって。前科はついちやいますけど

桑田 そうなんですか

野口 はい。仕事先にも別に何か連絡が行くわけじゃないですし、メディアで報道されたわけでもないの
で。黙ってれば、すぐ日常に戻るだろうって

志織 え、そんなもんなんですか。犯罪犯したのに

野口 犯罪たって…ただ画像や動画をパソコンに保存してただけだから

志織 いや、だって被害にあった子がいるわけですよ。二次元のポルノって事は

野口 被害っていうか。別に小森がその画像や動画を保存しようがしまいが、その子にはもう今更関係ないわけ

志織 関係あるでしょ。私ならイヤです。私のイヤらしい写真が世の中に出回ってたとして、それを新た

に小森さんが手に入れて、パソコンに保存して、良からぬことに使っちゃって思ったら…嫌でしょう！
普通に

野口 ……確かに

志織 ちよっと、感覚おかしくなってるんじゃないですか？エッチなコンテンツの見過ぎで

野口 ……そうかもしれない

桑田 でも、その、何でバレたんですか、その小森がさっしもの持ってるって、警察に

野口 なんか、自分で言ってたみたいです。さっしもの持ってるんだぞって。ギョースコードの別アカワン
トで

桑田 マジか…

野口 それを見たらさ、バ 内の誰かが、通報したんじゃないかと

志織 え、ちょ、意味わかんないんですけど。何でわざわざ、そんな馬鹿なことをするんです？自分から捕
まりに行ってるんじゃないですか

桑田 結構いるんですよ。さっしもの。申慢ていとか、仲間意識ていとか

志織 意味わかんない。全然意味わかんない。頭おかしいんじゃないですか？

桑田・野口 ……

七海、再びやってきて、テーブルの前で、野口をガン見する

志織 え？なんですか？

七海 ……野口先生、ですよね？

野口 え？

七海 やっぱり、そうだ！野口先生、お久しぶりです！七海です

野口 え、七海？えーと？

七海 あれ、忘れちゃったんですか、可愛い教え子の事

野口 教え子？いや、何の事だか

七海 いや、トボケンなよ、覚えてんだろ、野口ー！（嬉しそうに肩のあたりをグーパン）

野口 痛っ

桑田 ええっ？

志織 ちよっ、加害ですよ！？

七海 え？（笑）アハハハ、ほんと、全然変わらないな、先生。（と言った後、特徴的な笑顔で笑いかける）

野口 ……（痛）ってーな！いい加減にしろよ、梶川！

七海 アハハハ、ほらー、やっぱ覚えてたー。忘れるわけないんだなー先生が私の事

野口 ちっ、面倒くせーからとほけてたのに

七海 嘘だ。この前来た時から気付いてたでしょ？だから、今度もこま来たんですよ。私に会いたく
七

野口 んな訳あるか 俺はただ…ここのドリンクバーの味が気に入っただけだ（ドリンクを勢いよく飲む）
むー

七海 アハハハハ、（と、真似して、志織のコップのドリンクを勢いよく飲む）

志織 えっ、ええ、ちよ、何なんですか？誰なんですか、あなた？

七海 元教え子です。小5と小6の時、先生が担任で

桑田 え、野口さん、先生だったんですか？小学校の

志織 小学校…？

野口 いや、そついうんじゃないから

七海 先生かっこいいから、女子に大人気で。

志織 女子児童に人気？

野口 いや、だからほんとに

七海 私の初恋の人なんです。…だよなっ、野口（と、肩のあたりをグーパン）

野口 だから、それやめろ！痛えーから！

七海 エへへへ

志織 初恋の人？

七海 はい！…キャッ、思い出すだけでキュンとしちゃいますねえ。ちゃんと告白もしたんですよ…フラ
しちゃいましたけど。まあ、あの頃の私、全然女の子っぽくなかったしな。って、そっかいち問題じ
ゃないかー

野口 つうか、お前、仕事中心じゃねえのかよ？

七海 あら、いけない。つつい焼け木杭に火がついちゃったわ。ね、先生、まだいるんですよ。私、も
うすぐ仕事終わるんで、待っててくださいよ。…もっとお話したいんで。

野口 いや、俺も忙しいから

七海 いろ！（と、肩のあたりをグーパン）

野口 わかったよ…

七海 へへへ…じゃ、ごゆっくりどうぞ。

野口 七海、仕事に戻るため去っていく

野口 ……

志織 ……

桑田 ……

野口 で、小森さんの話ですけど、

志織

もう今それどうでもいいから！

桑田

ええっ？

志織

……どういふ事だか詳しく話しやがれっ！！このロリコン野郎！！！！

野口

はいっ！！！！

野口、立ち上がり、舞台中央、講演会的な雰囲気になるトーク位置の方へ歩いて行き、

野口

あれは、今から遡ること10年前、まだ私が聖なる職について居たころの話である。

照明変化

※桑田と志織は一旦去る

3-3

野口

俺は、とある私立（わたくしりつ）の小学校に勤務する若手教師だった。そこは最近ではだいぶ珍しくなった女子生徒だけの学校で、まだ若かった当時の俺は、趣味と実益を兼ねた素晴らしい職に付くことができた、毎日小躍りして出勤していた。（小躍りして出勤する）ヤッホー！

イグロ女子小学生、大森女子小学生、みずき女子小学生、ランドセル姿で登場

※ヒデオ役、小森役、みずき役の三人のロリコン男役の俳優が雑な小学生衣装で演じます

イグロ(小)

先生、おはようございます

野口

うん、おはよう！

大森(小)

ねえねえ先生、先生って好きな人いるー？

野口

アツハツハどうかなー。俺が好きなのは、お前らみーんなだからなー

みずき(小)

ちよっと、ごまかさないでよー

イグロ(小)

そっだよ、教えなさいよー、先生の好きな人ー

大森(小)

先生、好きー（抱きつく）

みずき(小)

ああー！

イグロ(小)

ちよっと、抜け駆けは許さないんだから！！好きー（抱きつく）

みずき(小)

わたしも好きー！（抱きつく）

野口

こらー！もうすぐ授業始まるぞ。早く教室に行きなさい！

三人

はい

三人の女子小学生、去っていく

野口

…と、毎日がちよっとしたパラダイスではあったが。実際の女子小学生なんてものは、まだ大して男子と体つきが変わらない子も多く、彼女たちを性的な目で見る事は皆無だった。案外こうやって、ロリコンがなおったりするのかもしれないなあ…なんて能天気にも考えていたもんだ。ただ、

白勢女子小学生、ランドセル姿で登場

白勢(小)

先生

野口

中には、魔性と呼ぶしかない、あきらかに自分の魅力に気が付いているような、自覚とも無自覚ともつかない色目を使う子がいたりもして

白勢(小)

先生は好きな人いないんですか？

野口 うん？まあ、今のところな
白勢(小) そうなんだー。私はねー…いるよ？

野口 そっか

白勢(小) (野口を見ている)

野口 ？、ほら、授業始まるぞ。早く行きなさい

白勢(小) はい。(と言った後、野口に近づき両手で野口の手を取って、上目遣いにみつめた後) フッフ

野口 いい子だ(頭を撫でる)

白勢(小) (撫でられて)先生、

野口 何だ？

白勢(小) 世の中には、頭を撫でられるのが嫌いな子供もいるんですよ

野口 ん。おお、そっか。悪い

白勢(小) ……

野口 ん？

白勢(小) フッフ(笑)別に私がそもとは十言も言っていないんですけど

野口 あ、こいつ

白勢(小) やい、だまされたー

女子小学生白勢、去る

野口 女性に不慣れた男性教師だったら、何かを勘違いして間違いを犯しかねないような、そんな危うさに溢れていた。ふうー、危うい危うい。

野口 だが、俺にとって生涯忘れえない、ただ一人の生徒となったのは、意外にも、まるで少年のような見た目をした、まだ二次性徴も始まっていない元気が取り柄の小柄な少女だった。

桑田が衣装をチェンジして「小学生時代の七海」となった「七海(桑田)」が現れる

七海(桑田) おい、野口！

野口 こら！先生を付ける、梶川

七海(桑田) 野口…先生！(と言ってから、大人になった七海と同じ特徴的な笑顔で笑いかける)

野口 何度注意しても、頑なに「野口」と呼び捨ててるのをやめない彼女を不思議に思った俺は、ある日の放課後聞いてみた。

野口 なあ梶川

七海(桑田) なんだ野口

野口 どうしてお前は何度言っても「先生」を呼び捨てにするんだ？

七海(桑田) 野口だって私のこと「梶川」って呼ぶだろ

野口 それはまあ、親しみを込めてというか。

七海(桑田) じゃあ、私もそれだよ。気付いたんだ、うちの学校、友達のこと「呼び捨て」も「あだ名」も禁止だけど、先生を呼び捨てにしちゃいけない決まりはないって！へへーっ

野口 昨今、多くの小学校では、友人に対する「呼び捨て」や「あだ名」が禁止されている。「いじめに繋がるから」というのが理由だ。由分は親しみを込めて呼んだつもりでも、相手は嫌がってるかもしれない。相手の身になって考えましょー…その結果が一律の「さん付け」呼びといものはおかしい話だ。それでいて教師の側は普通に生徒を呼び捨てにする。

野口 なるほど。確かにお前の言うことには一理ある。だけどな、先生の身になって考えてくれ。お前の

七海(桑田) 呼び捨てを放っておいたら、俺が教頭に怒られるんだ。わかった。じゃあ、二人だけの時にしよう！…そのかわり、二人の時は、野口も私のこと「七海」って呼ぶんだぞ？

野口 ええ…

野口 それから彼女と俺の間には、ときに教師と生徒、ときに呼び捨てあう友人同士、まるで二重生活のような奇妙な関係が生まれた。

七海(桑田) おい野口、ドッジボールしようぜ？

七海(桑田) おい野口、今日の給食はカレーだぞ

七海(桑田) おい野口、雨が振ってきたな！

七海(桑田) おい野口、

ちよとど、イグロ小学生が通りかかる

七海(桑田) …先生！

イグロ小学生、怪訝な顔で去っていく

七海(桑田) えへへへへ(あぶないあぶない笑)

野口 考えれば、大人になり社会に出るからは、互いを呼び捨て合うような関係は稀で、彼女に野口と呼ばれる度、まるで学生時代に戻ったような気安さと親しみを感じることができ…まあ、端的に言って楽しかったのだ。とても。だが、そんな時間は長く続かなかった。

七海、体育座りをして浮かない顔をしている

野口 ん、どうした梶川。今日の体育は見学か？珍しい、風邪でも引いたか？

七海(桑田) ああ、ちよととな…

野口 ん？

白勢小学生、通りかかって、それを見ていた

白勢(小) ちよとと、先生、デリカシーがないですよ？

野口 え？

白勢(小) 七海ちゃんは…(と言って、妙に近い距離感で野口に耳打ち(生理である旨))

野口 え…せ、あ…

白勢(小) ふふふふ…(去る)

野口 ……

七海(桑田) ちよ、あっち、あっちいけ

野口 恥ずかしくて俺を追い払おうとする彼女の、その姿を見た瞬間、あるうことか俺は…興奮していた。背筋にゾクゾクした冷たい電撃が走り、下腹(したばら)に泡立つ毒の種が俺に、彼女へ邪な視線を向けさせる。ああ、なんてことだ！その日から、俺は彼女を遠ざけるようになった。

七海(桑田) おい野口、最近どうしたんだよ？

七海(桑田) おい野口、聞いてんのか？

七海(桑田) おい野口、こっち見ろよ！

七海(桑田) おい野口。…おい野口。…おい野口。…。(うつむく。だが、また顔をあげて) おい野口…見る！(と肩のあたりをグーパン)

野口 痛っ！……。(痛) ってーな、何すんだ梶川！

七海(桑田) へへへ、やっそこっち向いたな野口！

野口 ああ…

七海(桑田) ったく、急に無視しやがって

野口 …悪かったよ

七海(桑田) 謝るくらいならすんな！(グーパン)

野口 痛っ、って、だからやめろよ、ほんと痛えから

七海(桑田) へへっ(※大人の七海と同じ特徴の笑い方) だって野口が悪いんだろ、約束守んねーから

野口 約束？

七海(桑田) そうだよ。運動会、徒競走で1位になったら1個言っこと聞かなくて

野口 ああ、あったな。そんなの。何すればいいんだ？

七海(桑田) いやあ、実は私、野口に聞きたいことがあるんだよ。だから、それに答えてくれ

野口 おお。なんだ？

七海(桑田) 野口は今、好きな人っているのか？

野口 は？なんでそんな事聞くんだよ

七海(桑田) だって、自分が好きなやつに好きな人がいるかは気になるだろ？

野口 はあ？おま…

七海(桑田) 好きなんだよ、私、野口のこと。ずっと前から。

野口 え…

七海(桑田) いや、ごめんな。急に気持ち悪い事言っつて。だけど、だめなんだ。最近さ私、野口の事考えると、なんかエロい気持ちになるっつつか

野口 いや、お前、何言っつてんだよ

七海(桑田) いやあ(笑) あれだ、チューしたりとか、もっとうすいアレとか…考えちゃってさ。こりやもうだ

めだなと思っつて。最後に、踏ん切りっつつか。聞いたこうと思っつてさ。

野口 は？さ、最後っつて…なんだよ

七海(桑田) いや、だっつて…悪いことなんだろ。子供が大人にそんな事思っつのは。だから最近、私のこと避けてたんだよな？ 私…野口のこと変な目でみてたから。

野口 そんなこと

七海(桑田) いいんだ。私、野口が嫌がることしたくないから。終わりにしようぜ、全部。だから、最後に教えてくれよ。野口が好きなのは、誰なんだ？

野口 俺が好きなのは…

七海(桑田) おう

野口 俺が好きなのは…

日野先生が通りかかる

日野先生 あ、野口先生、もうすぐ職員会議始まりますよ？

野口 …俺が好きなのは、日野先生だ(日野先生を指差しながら)

日野先生 えっ…！

七海(桑田)

…なるほどー、ハハハ、美人だしな！…じゃ、どうぞお幸せにー。(…と、去りかけるが、戻ってき
て)とうとう名前じゃ呼んでくれなかったな、野口！(と、肩にグーパン)
痛っ

野口
七海(桑田)

へへ！(と、特徴的な笑顔で笑いかけた後)…じゃあ、さよなら、野口！…先生！

七海(桑田)、去った

野口

……

日野先生

あの、野口先生？

野口

はい？

日野先生

……(バチバチとウインクというか目配せで、色目)

野口

……。

日野先生、去って行った

野口

それからはもう、俺たちの間に特に語るべきエピソードはなく、やがて彼女は卒業し、ほどなくして、俺は教師を辞めた。子供との間に恋愛が、性的な関係が成立しうると知ってしまった俺が、生涯何の間違いも犯さずに、教職を続ける自信はなかった。何より、もうあんな思いはたくさんだ。だが、あれから10年経った今でも、夢に見ない日はない。もしあの時、「俺が好きなのは…七海お前なんだ」そう答えていたら、お前はどんな顔をしたんだろうって。

3-4

いつの間にか、元のファミレスに戻っている
野口と、野口の話の話を座って聞いていた志織。 ※桑田はいない

野口

…ということが、あったのでございます。

志織

なるほどなるほど…

野口

すみません、キモい話で

志織

いや、まあ、そこまでキモい話じゃなかったですよ

野口

え、ほんとに？

志織

はい。別に手を出したわけじゃないですし。

野口

そっか！

志織

むしろそんな話を10年経った今も引きずってることの方がキモいです

野口

(落ち込む)

桑田、トイレから戻ってくる (※衣装の早替えのために遅れて登場)

桑田

ふう…

野口

あれ、口リ太郎先生、どちらに？

桑田

いやあ、ちよっとのっぴきならぬ理由があつてね。お手洗いに

野口

そっですか。話聞いてました？

桑田

余すことなく！

野口

ならよかったです

志織

で、どうするんですか？

野口

どうするって？

志織

そんな思い出の教え子に、こんななんでもないファミレスで再会できるなんて、奇跡じゃないです

か

まあ…そうか

志織 はい。ご都合主義にもほどがあります。だから、言っちゃいましょうか？

志織 本当の気持ちを。言って、スッキリしちゃいましょう

野口 いや、ムリムリムリ
そんなこと言ったら、いつまで経っても先に進めませんよ。結局野口さん、あの子のせいで、年も働かずに無職ロリコンしてたわけじゃないですか。

志織 いや、大家さんだけど…それは…そう
だったら、さっさと終わった恋には決着つけて、次（自分に手をあてて示しながら）に進みましよう

野口 いや、次、うーん

志織 ていなか、令田だつて、あの子がいるから、このファミリーにしたんですよ、待ち合わせ

桑田 え、そうなんですか？小森が逮捕された話するのには？

野口 いや、あの、その、もしかしたら、そうかな？ういには思ってたけど、ちよつと確かめたいな？
うーん

桑田 ええ…

志織 知り合いが逮捕された話をすあついでに、元中リの品定めとか…発想が終わってますね。

野口 面白い

志織 まあいいです。さ、そうと決まれば、さっさと告げて、お酒飲んで忘れて、家（うち）帰って、勢い余つて一緒の布団で寝ちゃいましょう

野口 いや、それはちよつと
志織 あ、来ましたよ

私服に着替えた七海、やってくる

七海 先生ー、お待たせー

野口 お、お、おう

七海 どうしたんですか？

野口 いや、あの、なんだ。ちよつと梶川に話があつてな

七海 え、なんですか？

野口 うん…今、梶川は、好きな人とかいるのか？

七海 え、なんですか急に

野口 どうなんだ

七海 え…（意味深に野口をみつめたあと）いますよ？

野口 あ、ああーそうか

七海 先生はどうなんですか？

野口 んー、いる。いるな。

七海 あらあ、奇遇ですね。

野口 ちなみに、その梶川の好きな人つてのは、今、どこにいるんだ？

七海 え、どこに？んー…（野口をみつめながら）たぶん、すぐ近くに

野口 志織・桑田えつ！

七海 先生の好きな人はどこにいるんですか？

野口 お、俺もたぶん、すぐ近くに

七海 奇遇ですね！

野口 梶川！

七海 はい

野口 実はな。俺の好きな人つてのは…俺が好きなのは…

みずき、入店してくる

みずき 七海

あ、みずっち

野口 え？

七海 紹介しますね、これが私の好きな人です

野口 え？

みずき どうも、みずきです

七海 みずっち、この人、私が小学校の時の担任の先生

みずき 小学校？

七海 うんそち。私の初恋の人なんだよ。ま、振られちゃったけど

みずき え、じゃあ、小学生時代の七海に告られたって事ですか？

野口 あ、まあ……

みずき ……ファン、良かったですね

野口 ええッ

七海 あと、こっち（志織と桑田）が……誰なんでしたっけ？

みずき え、あ、ロリ太郎先生！？

桑田 あ、即売会の際の

七海 ロリ太郎先生？

みずき あっ（しまった！）

志織 え、お知り合いなんですか？

桑田 あ、はい。俺の作品の熱心なファンの方で

志織 え！という事はあなたもロリコンなんですか？

みずき あ、いや、

七海 ちょっと、なんて事言っんですか。みずっちはそんなんじゃないですよ

志織 いや、でも、大ファンなんですよ、ロリエロ音声の

七海 な、ちよ、もうーなんなんですか。急にイヤラシイ話を。やめてください。私が世界で一番大好き

志織 なみずっちを「ロリコン」だなんて……犯罪者呼ばわりは許しませんよ！

野口 いや「ロリコン」(イコール)「犯罪者」じゃないから！

七海 え、そうなんですか。すみません、私、てっきりそういうものかと。

志織 成人してなおロリコンを惹き付ける元ロリ……

七海 だから、みずっちはロリコンなんかじゃないんです！ねえ？

みずき う、うん……

七海 ていうか、そうだ。そういえば、先生の好きな人ってどこにいるんですか？

野口 え？

七海 近くにいるんですよね？

野口 あ、いや、その

七海 教えるよ、野口！（肩にグーパーン）

野口 あ痛っ……や、あの、俺の好きな人は……

七海 好きな人は？

野口 俺が好きなのは……こいつです（志織を指差して）

志織 ええっ？

七海 やっぱりー！そうじゃないかと思っただんですよ。へえー。この人が野口の彼女かあー

志織 いや、彼女じゃないですから（野口に）

七海 え？

志織 ただの同居人ですから（野口に）

七海 同居人？

志織
野口 はい……くたばれ！このロリコン野郎！（野口を平手打ち）
んぶぶ

志織、去っていく

七海 ……ええっ！ええ？せ、先生もロリコンなんですか？
野口 ……ああ
七海 ええー！口、ロリコンの方が、小学校で先生を？ええ？ちよ、ええー？
野口 ああ、大丈夫。もう辞めたから
七海 え、先生、もう先生じゃなかったんですか？
野口 ああ、うん。あの、お会計。お会計お願いします
七海 あ、すみません。もう私、勤務時間外なんで。よかったら、あちらのセルフレジで
野口 ああ、そう。はい、じゃ、はい…

野口、魂が抜けたようにレジのある退店口の方向へ去っていく
桑田、帰るタイミングを逃した

七海 いやあー、いろいろビックリさせられたなあ。ねえ、みずっち
みずき 七海
七海 うん？
みずき 別れよう
七海 えええーっ！！な、なんで？
七海 ロリコンだから
みずき へ？
七海 俺、ロリコンだから。たぶん、かなり真性の。だから…ごめん！
みずき、走って去っていく

七海 へ、みずっちがロリコン？ええ？ちよ、待って、全然追いつかない。え？ちよ、…みずっち、みず
っちー！

七海、みずきを追って退店
一人取り残された桑田、とりあえず、テーブルのソフトドリンクを一口飲む。

桑田 ほんと…ロリコンを一箇所に集めるとロクな事にならない！

桑田のスマホが鳴る
桑田、スマホを取り出して見る

桑田 姉ちゃん…

桑田しばらく画面を眺めていたが、画面をタップして、切る

桑田 はあ…

照明変化

桑田 この時、俺は初めて、姉ちゃんからの電話を拒否した。色々あってどうしても出る気にならなかったのだ。今まで、着信を無視しようとすることはあっても、こんな風に明確に拒否したのは初めてで…少しだけ心が痛んだ。だけど、切った電話がもう一度かかって来ることはなかった。

桑田 その日の夜遅く、帰宅すると、家には家出した姉ちゃんを探しに来たという、ヒデオさんが待っていた。

3-5

照明変化
桑田の家

桑田 ただいま

奥の部屋から、未生に続いてヒデオが出てくる

未生 おかえりなさい

ヒデオ ヨッ、おかえり

桑田 え、ヒデオさん!?なんで

ヒデオ ちよつとな…

未生 家出しちゃったんだって、ユキさん

桑田 え、姉ちゃん?

未生 うん

ヒデオ いやあ、まあ、大丈夫。稀によくあるからことだから

桑田 稀によくあるって…

家(うち)に来てるんじゃないかって

他にないからな、あいつが行きそうなどこなんて

桑田 何があっただんですか?

ヒデオ ふう…聞いてくれるか。この哀れな男の哀れな話を…

ヒデオ、舞台中央へ移動していく

照明変化

再び、海外の講演会のような雰囲気

※桑田と未生はそのまま舞台後方に残って、ヒデオの話を聞いている

ヒデオ 3000円だか4000円だか安くはない金を払って観客席にいるところ、温気た話で申し訳ないが。実はこういうわけなんだ。

ユキ、出てくる

ユキ ねえ、なんで?なんでGPS入れたまま風俗行くのよ

ヒデオ だからそれさっき言ったろ。忘れてたからだよ!

ユキ なんで忘れるの!

ヒデオ なんで忘れるか?え、お前それ認知症のおじいちゃんにも同じこと言える?..

ユキ 言えない!

ヒデオ だろうよ!じゃあ、そういう事は俺にも言うな!って、だいたいお前がGPSオンにしるって言う

コキ たんじゃねえか、澄太郎くんに。約束守って怒られるのは心外だぞ？
 ヒデオ だったら、何で？何でその状態で風俗に行けるの？私が見てるってわかっている状態で。
 コキ だから、わかかんねーやつだな！オンにしている事は忘れてたし、あと風俗にも行ってない！
 ヒデオ 行ったでしょ！五反田の、レンタルルームに、派遣型のデリヘルの
 コキ 証拠もあんのか！
 ヒデオ あるよ！これ何？（と領収書のような紙切れ）
 コキ ああー！領収書
 ヒデオ なんて、こんなお店でしつかり領収書取ってくるの！
 コキ 確定申告で使えるかと思って
 ヒデオ ていうか、どうしてそれを私にみつかるような場所に、リビングのテーブルに置いとけるの！
 コキ ごめん、うっかりして
 ヒデオ せめて隠してよ！ねえ…
 コキ ごめん、次は隠す
 ヒデオ 次のあんのかよ！
 コキ ない！五反田はもう行かない！よくなかった。
 コキ だから、そういう事言ってるんじゃないの！
 ヒデオ じゃあどういふこと言ってるんだよ？
 コキ だから、…別に私は、風俗に行った事をどういふ言ってるわけじゃなくて
 ヒデオ ええーっ！新解釈
 コキ だから、ああ、もう！…ねえ、何で私が怒ってるか、本当にわからないの？
 ヒデオ いや、わかるよ。わかっているさ、ちゃんと。
 コキ 何？
 ヒデオ お前が怒っているのは、「俺が、お前が何で怒ってるか分かってないから」だ
 コキ ……
 ヒデオ 間違いない！
 コキ ふざけんな！（と手を振り上げるが、引っぱたく事ができず）……。
 ヒデオ えい（ユキのひざを蹴る）
 コキ ひざ蹴んな！（※前述のふざけんなと似せた言い方で）
 ヒデオ アハハ：本当にすまん（と、頭を下げた）
 コキ （その頭をしばらく見ていたが、こらえきれなくなり、出ていく）
 ヒデオ え、おい、ユキ！どこ行くんだ、ユキ、ユキー！晩飯ー！

と言いながら、ヒデオ、ユキの去った方へ追いかけて去る
 が、すぐおもむろに戻ってきて（それにあわせて照明変化）

というわけで、今にいたる

最低ですね

最低だ。なんで離婚されないのか、自分でもわからん

だったら

でもどうしようもないんだ！だって、風俗はもう、俺の体の一部だから…

いや、ユキさんが怒っているのは、ヒデオさんが風俗に行っているからじゃないと思いますよ？

え？

まあ、風俗に行っているのも怒っていると思いますけど。めっちゃくちゃ

いや、どっち

どっちでもいいんですよ、そんなことは。ちゃんと、相手の身になって考えてくださいって事です。

だったら、俺の身にもなってくれよ。わけのわからないことばっか言われて、どっしたらいいんだ？

桑田 やめてあげてください。風俗

ヒデオ それはできない。なぜなら、できないから。

桑田 どうして。行くのやめればいいだけじゃないですか。

ヒデオ じゃあ、澄太郎くんはやめられるのか？

桑田 え？

ヒデオ ロリコンをやめられるのかって、聞いてんだよ？

未生 ロリコン？

桑田 ちよ、ヒデオさん

ヒデオ 自分の身に置き換えて考えてみる。ちよっと身内に言われたくらいで、自分の真ん中を捨てられん

桑田 のかって

ヒデオ それは：

桑田 自分ができないことを、人に言っちゃあだめさ

ヒデオ …やめられますよ

ヒデオ え？

桑田 やめられます。別に、最初から一度きりのつもりだったし、続けるにしたって、そもそも同人としては一番人気のジャンルじゃなかったし、そろそろ潮時になって、思ってたんで

未生 何の話？

桑田 いや…実はさ(笑)お前には、恥ずかしくて言えなかったんだけど。最近俺、アダルト作品の仕事してて…。ロリコンの人向けのさ。金になるかと思って。

未生 そうなんだ

桑田 うん…ほら、この前渡したお金。あれ、その金でさ。だけど、まあ、ずっと続けるような仕事でもないし、これで本業の方がおろそかになったら本末転倒だし。それに…

未生 それに？

桑田 やっぱ、恥ずかしいだろ？(笑)、お父さんがロリコンの仕事してるってなったら。あの子も、お前も

未生 わたしは…

ヒデオ 偉い！偉いぞ澄太郎くん！

桑田 え？

ヒデオ よく言った！よく言えた！それに比べて俺は…クウー！わかった、俺もやめる。今度こそ、風俗通いをやめる！…いや、減らす！

桑田 やめてあげてよ

ヒデオ やめる。大事な人を傷つけて何の風俗か。なあ、澄太郎くん！一緒にやめよう！俺は風俗を。澄太郎くんはロリコンを！

桑田 はい…

ヒデオ アハハハハ、これで万事解決だ！…畜生…

桑田 あ、あの…

ヒデオ うん？

桑田 俺、ちよっと一本仕事の電話かけなきゃで…ちよっと、出ますね
ヒデオ ああ、うん

澄太郎、逃げるように去る

未生、澄太郎が出ていくのを見送った後、
気付いたらヒデオの胸ぐらを掴んでいた

ヒデオ え、何？

未生 なんだろう…？

ヒデオ 離してよ、伸びちゃうから

未生 (離す)

ヒデオ んん?…まあ、でも良かったじゃない
未生 何がです

ヒデオ いや、ちよっと、心配してたんだよ。いつになったら、やめるんだろって
未生 何をですか?

ヒデオ ロリコンを?

未生 何ですか?

ヒデオ や、だってさ、ロリコンなんてのは、言うなりや、「子供の裸」なんていう、
未生 邪悪なコンテンツしか興奮できない…「異常な性癖」だろ?
だから?

ヒデオ だから、この先どれだけ世の中が変わったとしても、受け入れられる事はないと思
未生 うんだよね。ほ
ヒデオ ら「GB」だっけ、ああいつのとか、俺の風俗通いと違ってさ

未生 やめた方がいいですよ、そういうの

ヒデオ え、どうなの?

未生 何かを何かで雑に例えるの。

ヒデオ んん?いや、だってさ。ぶっちゃけ、澄太郎くんが未生ちゃんと結婚したの
未生 だって、絶対そういう

部分あるわけじゃん?…ほら、未生ちゃん、背ちっちゃいし、ロリっぽいし

未生 (ヒデオを平手打ちして)…殴りますよ?

ヒデオ もう殴ってる!

未生 はい。だって、それは、大変失礼な物言いです。つまり、彼の性癖ではなく、
ヒデオ あなたは私の事を邪

悪な女だと言っています

ヒデオ え、言っていないって、そんなこと。ていうか、何その変な喋り方

未生 動揺してるんですよ(※動揺していない言い方で)

ヒデオ そっちは見えないけど

未生 (ヒデオを平手打ち)

ヒデオ だから痛いつて。加害だよお、これ?

未生 ……

ヒデオ ええ? 謝らないし。まあ、いいけどさあ。つてか、澄太郎くん、遅いね。全然帰って来ない
未生 じゃ

ヒデオ ん?

未生 隣室で、赤子が泣き出す

ヒデオ ……

未生 え?泣いてるよ?

ヒデオ ……

未生 赤ちゃん

ヒデオ ……

未生 赤子の泣き声がさらに激しくなる

ヒデオ え?え?嘘でしょ?

未生 ……

ヒデオ ちよ、え?泣いてるって

未生 ……

ヒデオ え、マジかよ…しょうがないな

未生 ……

ヒデオ ヒデオ、未生の脇をとおって、赤子の部屋へ向かう

未生 未生は、桑田の去った方を見続けていて動かない

ヒデオ

ええ?…ちよ、何もしないのも虐待だよ?

ヒデオ、隣室に入って行った

ヒデオの声: はい、どうちまちたかー。ばぶー。…だめだ、全然泣き止まない。ねえ、未生ちゃん?おー
い?どうすんのこれー?…ねえ?

未生、動かない

暗転

雨の音

明かり^上

傘を差した桑田が一人立っている。

しばらくの間うつむいて、しゃべらない

が、やがて顔あげて、

桑田

…すぐに戻るつもりで、ちょっとオモテに出ただけのつもりが、どうしても足が家に向いてくれず、俺は家(うち)に帰れなかった。帰れないのか、帰らないのか、そもそもどうして俺は家を出たのか、何が俺にそうさせるのか、わからなかった。…いや嘘だ。本当はわかっている。傷ついていたのだ。小森が言うところの、俺の「ロリコン魂」が。

桑田、とぼとぼと歩き出す。

しばらく黙って歩いた後、歩きながら、

桑田

そりゃそうだよ。最初からわかりきったことだ。どこの世界に、子供のミルク代を稼ぐため「仕方なく」ロリエ口同人をやるお父さんがいる？他にいくらでも仕事はあるだろう。同人をやるにしたって、本当に金が目的なら、「ロリ」なんてマイナーなジャンルは選ばない。やるなら「巨乳」だ。「巨乳」のシエアは「ロリ」の10倍。ミルクのためなら、断然「巨乳」…って、俺は何をうまいこと言ってるんだ、道の真ん中で。

たまらなくなって、走り出す桑田

桑田

俺は、俺は…

転ぶ桑田

指していた傘がわきに転がる

ゆっくりと起き上がる桑田。起き上がりかけのまま、

桑田

俺は…好きでロリエ口同人をやっていたんだ。生まれたばかりの娘と妻を家に残して。金のためだと言いつつながら、娘が物心つく前に、駆け込みで、急いで、ただやりたいことをやってただけなんだ。

座り込む桑田

雨の音が強まる

傘を拾う桑田

桑田

…ああ、無性に今、小森と話したい。小森と屈託なく、ロリエ口の話がしたい。そう口にした瞬間、俺のスマホがブルブルと震えて着信音が鳴る。

桑田のスマホの着信音が鳴る

スマホを取り出し、画面を見る桑田

桑田

相手はもちろん、小森だ。(都合主義もここに極まる。(桑田、電話に出る)もしもし…

小森、スマホを耳にあてながら出てくる

小森 あ、もしもし桑田？いやあ、やっと話せたよ。いや、割とすぐ家には帰れたんだけどさ、スマホもパソコンも持ってかれちゃって、連絡取る方法なくなっちゃって

桑田 そうか

小森 だから、ごめん。次一緒に作ろうって言ってたロリエゲームのデータも、全部なくなっちゃって。

桑田 そんなの、また描けばいいだろ

小森 そうなんだけどな…

桑田 なんだよ？

小森 俺、やめようと思うんだ。エロ同人

桑田 え

小森 いや、結構界限に広まっちゃってさ、俺が逮捕された事。ズツポ氏逮捕ってSNSでもトレンド入りしてて（笑）

桑田 そんなの、名前変えればいいじゃん

小森 いや、なんていうか、怖くなっちゃったんだよ。俺

桑田 怖い？

小森 そう。このまま続けたら、俺どうなっちゃうんだろうって。二次元専門だと言ってた俺が、いつの間にか三次の児童ポルノ集めるようになって。やっぱ、日頃摂取し続けて来たエロコンテンツの悪影響が、知らない間に俺を蝕んでいたんだなって。

桑田 いや悪影響って、そんなのわかんねーじゃん。何かそういうデータとかあるのかよ。

小森 ないけど。でもわかるだろ？…お前も気をつけろって事だよ。「ロリエロをのぞく時、ロリエロもまたこちらをのぞいているのだ。」「…じゃ。

電話が切れる音

小森、去る

桑田 小森…

雨が強まる音

傘の下で小さくなり雨に耐える桑田

桑田 …そりゃ、誰の心に何の影響も与えないような無害な作品があるとして、それに何の意味がある？ 思うよ、作家なら誰だって。だけどそれを言ったら、この世界に、他人の心へ影響を与えないものなんて存在しない。ロリの裸を描いた作品が有害だと言っなら、現実のロリの、子供自身の裸はもっと有害だって事になる。そしたらもう、ロリコンは全ての子供を遠ざけて、生きていくしかないだろう…

再びスマホの着信音になる

桑田、スマホを取り出し、画面を見た後、電話に出る

桑田 もしもし…

野口、電話を耳にあてながら出てきている

野口 ああ、もしもし、ロリ太郎先生ですか
桑田 はい

野口 実際は、お別れのご挨拶をと思ってご連絡しました
お別れ？

野口 はい。自分、日本を出ようと思ひまして
え、そうなんですか

野口 はい。ちよつと、帰る家がもう、この国にはなくなつてしまつて…
そつですか…

野口 たぶん、僕はずっと目をそむけて生きて来たんです。自分の心に集食う闇から。
闇ですか。

野口 はい。暗闇が怖いなら、それが見えないように目を閉じればいい…そつ思つてました。だけど気付
いたんです。目を閉じると…真つ暗だつて。
でしょうね。

野口 本当は「好きだ」と伝えたかっただけなんです。今はもうどこにもいない、あの小さな女の子に。
ハハハ、ほんと救いようがありません。とつくに手遅れだつたんです。

桑田 ……

野口 ま、ゆつくり考えますよ。人生は長いんで。まずはこの失恋の傷を癒やさないとですけどね！ な
に、何ヶ月か世界を旅すれば元氣になります。僕の心は、僕と違つてタフなんです。残念ながら…
じゃあ、お互い生きていればまた会いましょう！…ボンボヤージュ！

電話が切れる音

野口、去つていく

桑田 そつ言つて、野口さんは機上の人になつた。

飛行機が飛び立つ音（ジャンボジェットとか？割り短めに。）

桑田 これは後日の話だが、世界を旅する野口さんからは、ちよくちよく写真が送られて来て

映像投影

世界を旅する野口の写真が、次々に切り替えて何枚も投影されていく

※ピラミッドやウユニ塩湖のようないわゆる有名な観光スポットでの記念撮影

桑田、それを見ながら、

本当に残念な事だけど、野口さんの顔は一点の曇りもなく楽しそうに見える。「欲望とはそれを手に
入れるまで不幸でいるという契約」のことだ。欲望を手放した人間は、そう…幸せになるのだ。人
はそれを「余生」と呼ぶ。

照明変化

桑田 気が付くと、俺はまた、例のファミレスの前に立つていた。深夜のファミレスにファミリーはおら
ず、どちらかと言つとファミリーのいないファミリーの方々が集つてゐる印象だ。家族などつ
くる資格のない、俺達ロリコンにはピツタリ場所である。ん？

みずき出てきていた。店の軒先でうづくまり、イヤホンで音声を聞いている

桑田 店の前の軒先でうづくまっていたのは、俺の作品のファンだというあの男だった。

桑田 あ…

みずき ふあい？

桑田 大丈夫ですか？

みずき あ、はい、て、ええ！ロリ太郎先生！

桑田 また会いましたね

みずき はい：今、ちょうど聞いてたんです、先生の作品

桑田 いや、それオナサポ音声だからね。こんなところで、うずくまって聞くもんじゃないから

みずき そんな事ありません！僕にとってこの作品は、オナニーだけじゃなくて、人生のサポート音声が

す。じんサポ音声です。

桑田 じんサポって：

みずき 俺、自分がロリコンだって事、本当に誰にも言わずに生きてきたから：時々その事忘れそうになる

んですけど、これ聞くと思い出せるんです。ああ、やっぱりロリとのエッチは最高だなんて。

桑田 ああ：（嫌そうな顔）

みずき だから、次回作も超楽しみにしてます！ほんとこれからも応援してます！

桑田 いや：それなんだけど。実は俺、もうロリエロ同人は：

みずき 俺、気付いたんです

桑田 え？

みずき 人生はオナニーと同じだって

桑田 え？え？どゆこと？

みずき どうせ、果てるまで苦しむなら、せめて自分が一番好きなおかずで：そのおかずでなら、人生いく

ら苦しんでも構わないっていう、圧倒的に大好きなおかずで抜くべきだって！

桑田 うーん？

みずき だから、俺、もう一度彼女とよく話してみます。

桑田 え、あ、そう。

みずき はい！残りの人生、全部「賢者タイム」じゃあ、つまらないですからね。

桑田 賢者タイム？

みずき アハハハ、それじゃあ、また！

と、みずき、去ろうとするが

桑田 あ、待って！

みずき はい？

桑田 これ、あげるよ（と自分が差してる傘を渡す）

みずき え、でも

桑田 いいから（強引に手渡す）

みずき これじゃ、ロリ太郎先生が濡れちゃうじゃないですか

桑田 …大丈夫、わたしはただのそういう「役」だし。それに本当はここ（※舞台の上）、雨なんて降って

ないんだから

みずき え？

桑田 へへっ（とテンプレートな可愛いポーズ）

みずき えっ、（と、目をこすって）今、一瞬ロリ太郎先生が可愛い女子小学生に見えたような

桑田 それじゃ！

みずき あ、はい。ありがとうございます、これ（傘）

みずき、傘をさして、去って言った

桑田 ……よし、帰るか！

桑田 そうして、俺は元来た道を歩いて戻り、再び家の前まで戻ってきた。あたりはまだ、夜明け前の一番深い暗闇に包まれていたが、雨はいつの間にかあがっていた。そして、俺が帰るべき家の前には、

俺が向き合わなければならぬ、血の繋がった心の闇が、俺を待っていた。

照明変化

桑田の家の前

ユキがたんだビニ傘を手に立って、桑田を待っていた
※ぶ厚めに膨らんだコンビニATMの封筒を持っているが、少し濡れてしまっている

桑田 …姉ちゃん。

ユキ …で、電話、出てくれなかったの？

桑田 …ごめん

ユキ ううん、ごめんじゃなくて。お姉ちゃん、何で電話に出てくれなかったのかを聞いているの
だつて…出るとまたかけてきちゃうだろ

ユキ かけてきちゃう？

桑田 ああ

ユキ だめなのかけてきちゃ

桑田 だめじゃ…ないけど

ユキ え、それってお姉ちゃんが迷惑だったってこと？

桑田 迷惑じゃないけど

ユキ ううん、迷惑だつて言ってるよ。澄ちゃん、お姉ちゃんから電話来るの迷惑だつたつて言ってる
言つてないよ。…勝手に決めつけないで。

ユキ …ごめんなさい

桑田 迷惑じゃないよ。俺も姉ちゃんと話したい時あるし

ユキ あるんだ？

桑田 え、や、何だと思つて話してたんだよ

ユキ 迷惑かなつて

桑田 自覚あつたのかよ！

ユキ やっぱり迷惑だつたんじゃない！

桑田 いや、そうだけど、ちょっとは（笑）でも嫌じゃなかったよ。別に。俺、姉ちゃんと話すの嫌いじ
やないし。昔から。

ユキ そうなんだ…

桑田 うん。

ユキ ……

桑田 家出したんだつて？

ユキ 何で知ってるの？

桑田 ヒデオさん、探してたよ。家（うち）に来たんだ。姉ちゃん来てないかって…心配してたよ
心配なんて…ヒデくんがするわけない
してたよ、心配

ユキ するわけない！どうせ、そのうち帰ってくるつて思ってるんだよ。ヒデくんは！
……

ユキ まあ、帰るんだけどね。どうせ。そのうち。

桑田 …姉ちゃんはさ、なんでヒデオさんと結婚したの？

ユキ …なんでだろう…ヒデくんが、嘘が下手だからかな？

桑田 嘘が下手？

ユキ そう。だから、ヒデくんの考えてることつてすぐ分かっちゃうの。本当のこと全部。それつて安心
するんだよ。でも、それつて…すごく辛い。ねえ澄ちゃん、わたし、どうすればいいのかな…？

桑田 …姉ちゃんはさ、姉ちゃんが電話しなきゃいけない相手は、たぶん俺じゃないんだよ。

桑田 うん…変。だけど、嫌いじゃないよ。むしろ、好きだ。それ…(笑)

ユキ なによ、それあ…あ…(泣)

桑田 …どうせ、思い通りになんかならないんだよ、この世界は。だから、せめて、自分がどうしたいかくらいは口にするんだ

ユキ どうしたいか…

桑田 そう。姉ちゃんは、どうしたいんだ？

ユキ 私は…私は…ヒデくん…ヒデくん…ヒデくん…風俗に行かないでもらいたい！風俗に行かないでもらいたい

桑田 よーおーおーおー(号泣)

ユキ …う、うん

桑田 ヒデくん、もう風俗に行かないでー、お金もかかるからー(号泣)

ユキ そだね

桑田 そのお金で誕生日に食事に連れてってよおーそのお金でちょっと私になんか買ってよお…ちょっとしたもおーおーおー

ユキ うーん

桑田 ちょっとしたもおー！(号泣)

ユキ 泣き続けるユキ

桑田 未生が遠慮がちに出てくる

未生 あのお…

ユキ ヒッ！

未生 すみません、声がしたので

ユキ ものおーおーおー、ご無沙汰しとります、あら未生ちゃん元気そつでなによりだわ無理すんなって

ユキ 無理はしない。無理は良くない！おーおーおー

未生 (微妙な笑顔)

桑田 姉ちゃん、悪いんだけど、ちょっと家(うち)でこの子見ててもらえるかな…いいよ

桑田 (未生に赤子を預けるよう促す)

未生 え？…うん(と赤子をユキに渡す)

桑田 お願

ユキ お願い

ユキ うん…

ユキ 赤子を抱いて去っていく

去り際に

ユキ ベロベロバー

ユキ 赤子、火がついたように泣き出す(音)

ユキ いらんことしたー！

ユキ 去る

未生 おもしろいね、お姉さん

桑田 うん

桑田 ただいま
 未生 おかえり…なさい？
 桑田 うん…ごめん、帰って来なくて
 未生 …大丈夫
 桑田 ほんとに？
 未生 ……（苦笑して首を振る）
 桑田 ごめん、逃げちゃって
 未生 逃げたの？
 桑田 うん
 未生 なんで？
 桑田 なんでだろう。やめなきゃいけないって思ったたら、帰れなくなっちゃって
 未生 何を？
 桑田 ロリコン…かな？
 未生 そうなんだ
 桑田 うん…俺さ、ロリコン…なんだ。たぶん
 未生 うん
 桑田 いや、ごめん、たぶんじゃない。ロリコンなんだ。俺はロリコン
 未生 うん…（苦笑）
 桑田 だから…本当はお前と、未生ちゃんと、結婚なんかしていい人間じゃないのかもしれない
 未生 なんで…？
 桑田 だって…俺が未生ちゃんを好きになったのは、俺がロリコンだからで、未生ちゃんが小さくて可愛
 未生 い人だったからだし
 桑田 だめなの？
 桑田 だめだよ。だって、じゃなかったら、好きにならなかったって事だろ、未生ちゃんのこと
 未生 だったら、むしろロリコンありがとじゃん、私がちっちゃくて良かったじゃん
 桑田 それはそうだけど。でも、俺…ものすごく邪な目で見てるんだ、未生ちゃんのこと
 未生 邪な目？
 桑田 うん、子供みたいで、その…興奮する。すごく可愛い、って思ってしまっ
 未生 いいじゃん、それ
 桑田 違うよ、わかってない、エロいんだよ、なんか肉として
 未生 はあ…まあ、でも、あなたその邪のおかげで、あの子が生まれたって事でしょ。邪ありがとう
 桑田 じゃん。
 未生 それもそうだけど。…違うんだよ
 未生 なにが
 桑田 俺さ…物凄く楽しみにしてるんだ…
 未生 なにを？
 桑田 …あの子が大きくなって、11歳くらいになって、未生ちゃんそっくりな女子小学生になるのを
 未生 いや、その何が問題？
 桑田 問題だよ！だって俺は、その11歳になった彼女に「邪な目」を向けるかもしれないだから。
 未生 いや、まあね、薄々はね、感じてたよ。その…ロリコンていうか、そういう小さい子が好きなんだ
 桑田 ろうなってるのは。私のこともそういう目で見てるのかなとか。
 未生 うん。見てた
 桑田 だけど、さすがに大丈夫なんじゃない？実の娘は。ほら、親とか兄弟に対して、そんな風に思わな
 未生 いのと一緒にで。
 桑田 わかるもんか。だって、未生ちゃんの子供だよ。俺にとって世界で一番興奮する最高の女である未
 生ちゃんの娘が、生涯で最も興奮する年齢である11歳に育った時、この世界で俺だけが、父親だけ

未生
桑田
未生

らって、俺だけが、彼女を邪な目で見ない道理があるか。どう考えても間違ってる。
いや、何も間違ってる！俺は…何もかも間違ってる…（頭を抱える）
そうだね…

わかったか。俺は日々そんな事を悶々と考えながら、ロリエロ作品をつくっている。これがお前が結婚した男の正体だ。お前が、「お金なら私が必要とかするから」「シングルマザーのつもりでいいから」と言ってる結婚し、ロクに家に金を入れず、芸術家のフリをして、姉から金をせびっている俺の、お前が「やめなくてもいい」と言った「やりたい事」というのが、これなんだ！わかったか！
…わかったよ（苦笑）

未生
桑田
未生

聞いてくれてありがとう
どういたしまして

未生
桑田
未生

率直な感想を聞かせてください
うんとね…ちょっと気持ち悪い
ありがとう

未生
桑田

…別れる？

未生
桑田

……（笑う）
……

未生
桑田

いや、別れないよ。気持ち悪いくらいで。ちょっと変だとは思っけど…別に嫌じゃないしよかった。そうだな、ちょっと変わったご家庭っただけで。麦茶にお砂糖入れるのとおんなじだよな。

未生
桑田

それはちょっと違うと思っけど…（笑）
そっか…（笑）
ただ、一個だけ確認していい？

未生
桑田

うん？

未生
桑田

あの子が大きくなって、11歳になっても、絶対に手は出さないんだよね？
当たり前だろ！世界で一番大好きな女が産んだ、世界で一番大好きな女の子を、傷つけるやつがいたら絶対に許さない！たとえ、それが俺であっても！絶対にだ！

未生
桑田

…だと思っただ（笑）
（笑）

未生、桑田の頭を撫でようとする

桑田、その手をかわす
不思議そうにみつめる未生

桑田、代わりに両腕を広げる

未生、桑田の元へ歩いて行き、二人抱き合う
少しの間、無言で抱き合った後、

桑田

ただ…

未生
桑田

ただ？
知って欲しいとは思ってるんだ。こんな風に考えてたよって事を。彼女に…

未生
桑田

え、ロリコンの事？
そう、ロリコンの事

未生
桑田

うーん…理解は、されなと思うよ。あんまり聞きたくもないだろうし、親のそつじ話。理解はされなくていいんだ。ただ知ってもらえれば。その上で、「気持ち悪い」とか「嫌い」だとか思うのも、口汚く罵倒するのも、それは彼女の自由

未生
桑田

でも、難しいよ。だって、その告白にはちょっとした「加害性」すらあると思う
うん…だから、どうすれば、齟齬なく、余すことなく、なんなら楽しく？ 伝えられるか、考えたい

未生 うーん…
 桑田 お前は、どうすればいいと思う？
 未生 ええ…？それ、もう答え言わそうとしてんじゃん…分かってて聞いているでしょ？
 桑田 お前の口から言ってる欲しいんだよ…
 未生 書きなよ。シナリオでも小説でも、なんでも。物語を。
 桑田 だよな？ やっぱ、「本当の事」を伝えるには「フィクション」が一番だよな
 未生 うん(苦笑)
 桑田 だったら…やっぱそれは「お芝居」かな？
 未生 え、なんで？
 桑田 だって「お芝居」のいいところは、役者がどんな役でも演じられるところだよ。
 未生 どんな役でも演じられる？
 桑田 うん。だから、もしそれが叶うなら、彼女が11歳になった時、そのお芝居で俺の役を演じてもら
 未生 んだ
 桑田 ええ！女子小学生がおじさんの役をやるの！？
 未生 そう。だって、それが一番、「俺の身」になって考えられるだろ
 桑田 いや、お客さんびっくりしない？
 未生 大丈夫だよ。なんか、前衛的なお芝居だって、勝手に誤解してくれるから
 桑田 ええ…
 未生 想像してみろよ。今、このシーンなんて最高だぜ？舞台の上には、俺が世界で一番好きだと思っ
 未生 てる女が二人だけ、ずっと俺の話をしている、俺はそれを客席でニヤニヤしながら見てるんだよ
 桑田 嬉しいのはあなたただけだ。ていうか、あの子がやってくれるかもわからないし。
 未生 そんなのはどっちでもいいんだ
 桑田 いい。俺がそうして欲しいと思ってる、それを今こうして口にできてる、その事の方がよっぽど大
 未生 事だから。
 桑田 そっか。
 未生 うん…。タイトルは何にしよう？「シン・ロリコンのすべて」「違うな、「ロリコンはどう生きるか」
 桑田 うーん、パクリはよくない
 未生 シンプルでいいんじゃない？
 桑田 …だな！ じゃあ、タイトルは…

桑田、未生、二人そろって客席に向き直り、観客に向かってタイトルコール

桑田・未生 「ロリコンとうさん！」

ミ.ミ

照明変化

桑田、未生、顔を見合わせて笑う

未生、去っていく

桑田 唐突だが、壮大なネタバラシが済んだこのあたりで、物語に幕を下ろそうと思う。最後に大事な事だから、もう一度だけ言うておく：この作品は、フィクションであり、実在する人物、団体とは一切関係がない。ただし、登場する口リコン達にリアリティを持たせるため、60人以上の実在する口リコン共を取材し、そのエピソードをシャッフルする形で、人物造形をした。彼らがその後、どうなったかを伝えて、エピソードとさせてもらおう。

小森出てくる

小森 おい、桑田！お前がさっさとシナリオあげないと、次の即売会にディスクのプレスが間に合わなくなるんだよ。なんでもいいから、さっさと書いてくれよな。

桑田 小森は、エロ同人を辞めると言ったのも束の間、ペンネームを「小森ズッポ氏」から「大森ズッポ氏」に変えて活動を再開。SNSでのトレンド入りがプラスに働き、むしろ逮捕前より人気があるくらいだ。

小森 (客席に向かって実際に宣伝する感じで)「ズッポ氏印」の最新作、凌辱系女主人公ものRPG、2023年12月に、DLsiteと冬の即売会で同時に頒布開始予定です。探してみてくださいよな？

小森、去る

桑田 次に、俺の作品のファンだというあのチャラついた男だが、無事彼女と奇りを戻したらしい。

みずき、七海、出てくる。

七海は、ランドセルに黄色い帽子をかぶって、雑な小学生コスプレをしている

七海 みずきくん！

七海：なんだよ、その格好努力！

みずき ……舐めてんのか

七海 舐めてないよ。ただ好きな人の需要に少しでも答えようと思って。…対戦よろしくお願いします

…ハハハ

七海 ……

いいよ

え？

対戦よろしくお願いします！

……望むところだ！(涙)

何泣いてんだバカ！

武者震い泣きでござる！

みずき ねえよ、そんな泣きは…：へっへっへ、後悔させてやるぞー！(と、七海をいぢない寝室へ向かおうとする)

七海 キャッ、キャッ！

今夜は寝かさねえから

七海 あ、明日バイト早番だから2:30までは寝たいですわい

みずき
調整…できませーん
七海
ええー！

二人、去る

桑田
そして、海外へと旅立った野口さんだったが、あれから5年が過ぎた今も日本には戻っていない。その後の連絡も途絶えてしまい、彼がどうなったかはわからない。が、それでは物語が閉まらないので、ここは一つ想像で補完した今の様子を見てみよう

野口、ラクダに乗って出てくる

野口
いやあ、世界にはまだまだ見たことのない不思議がいっぱいでござるー！

志織、ラクダの後方から現れる

志織
野口
野口さん
ん？

迎えに来ましたよ

…（目をこすって）、なんだ、曇気楼か

無視すんじゃねーよ、野口！（と野口の肩のあたりをグーパーン）

痛っ…！ええっ？

やっところち向いたな。随分探しましたよ

え、何か用？

はい。ちよつと…お金貸してください

え、なんで？

帰りの飛行機代ないんで

え…おま…すげえな…

フフ…やっど気付いたんですか？すごいんですよ…私は

野口、ラクダの後ろに乗れというしぐさ

ラクダの背の野口の後ろに乗る志織

ラクダに揺られて、笑いながら去っていく二人

桑田
最後に、姉ちゃんとヒデオさん夫婦についてだが、まあ、二人に関しては誰もが予想したとおりの結末を迎えた。世界で唯一、ヒデオさんだけが、それを不思議がってはいたけど。

ヒデオ
ああー食った食った。たまには、いいもんだな、記念日に外で食事するのも

ヒデオ
そっだね

あ、これ（と、「ちよつとしたもの」を取り出して、ユキに渡す）

ユキ
え、なに？

ヒデオ
（※黒ユマ）だよ、ほら、前にお前、ちよつとしたものが欲しいって言ってただろ？

ユキ
え…ありがとう

ヒデオ
おう

ユキ
嬉しい…

ヒデオ
そっか

ユキ
すごく嬉しい

ヒデオ
そっか？

ユキ
結婚してから、今までで一番嬉しい！

ヒデオ

アハハ、そうか！なんだ、こんなもんでご機嫌になってくれるなら、いくらでも買ってやればよかったな。コスパ最高じゃん。アハハ

ユキ

ねえ、ヒデくん？

ヒデオ

離婚しよ（笑顔で）

ユキ

……ええーっ！

ヒデオ

……（笑顔）

ユキ

ええーっ！

ヒデオ

……（笑顔）

ユキ

ええーっ

ヒデオ

（→をほぼ言わずに笑顔のまま平手打ち）

ユキ

ンブツ…へ…か、加害…

ヒデオ

（笑顔で平手打ち）

ユキ

ンヘッ！

ヒデオ

愛してるよ！ヒデくん…（と言ってから、笑顔で最後の平手打ち）

ヒデオ

ンベッー…！ええーっ！

二人、去る

5-2

桑田

俺の話は以上だ。3000円だか4000円だか安くはない金を払って観客席にいる貴様ら、観客諸君には申し訳のない話だが…願わくば、将来この芝居で俺の役を演じる事になる彼女が、物語にできるだけポジティブな感想を持ってくれることだけを、俺は、心の底から祈っている。この芝居が終わったあと、客席後方でそれを観ていた俺のところに来て、彼女は言っただろう。「…お父さん、ロリコンって、とっても面白いね！…お父さん、大好き！」

暗転